



Kodak

i1400 シリーズスキャナ

TWAIN ドライバ用
スキャンセットアップガイド

TWAIN データソースのスキャンセットアップガイド

[Scan Validation Tool] の起動.....	2
[Scan Validation Tool] ダイアログボックス.....	3
TWAIN データソースの使用.....	4
開始方法.....	5
イメージ設定の選択.....	6
デバイス設定の選択.....	7
コダックスキャナーメインウィンドウ.....	8
イメージ設定ウィンドウ.....	11
プレビューウィンドウ.....	13
[一般] タブ.....	14
[サイズ] タブ.....	16
[調整] タブ：白黒.....	19
[調整] タブ：カラー/グレースケール.....	21
[拡張機能] タブ.....	23
詳細イメージセットアップ.....	26
[詳細] タブ.....	26
[原稿内容の設定] タブ.....	29
原稿の内容に基づくカラー/グレースケールまたは白黒イメージの作成.....	31
原稿の各面に対する複数イメージの作成.....	33
原稿の各面に対する複数設定の作成.....	35
新しい設定のショートカットの作成.....	37
イメージ設定の変更.....	39
デバイス設定ウィンドウ.....	40
デバイス - [一般] タブ.....	41
デバイス - [プリンター] タブ.....	43
デバイス - [重送検知] タブ.....	46
デバイス設定の変更.....	48
[診断] ウィンドウ.....	49
診断 - [一般] タブ.....	50
診断 - [デバッグ] タブ.....	51
診断 - [ログ] タブ.....	52

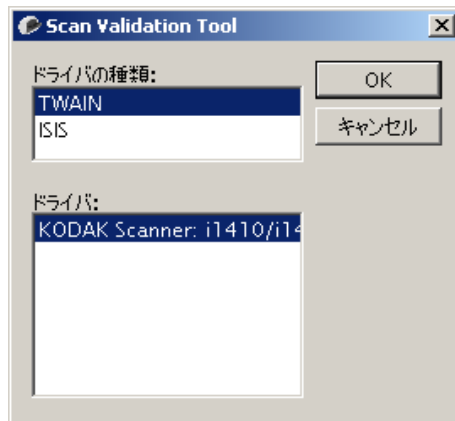
コダック i1400 シリーズスキャナーではイメージ処理機能により高い画質のスキャンイメージを取得できます。

イメージ処理とは、各イメージに対して給紙の傾き調整や不要な枠消し、イメージのノイズ除去などスキャンイメージの質を自動的に向上させるスキャナーの機能のことです。

本ガイドではTWAIN データソースの使用手順やスキャナーの機能について説明します。これらの機能は、使用しているスキャンアプリケーション（コダックキャプチャプロソフトウェアなど）のユーザーインターフェースでも選択できます。

[Scan Validation Tool] の起動

1. [スタート]>[プログラム]>[コダック]>[原稿のイメージング]>[Scan Validation Tool] を選択します。



2. [ドライバーの種類] で [TWAIN] (または ISIS) を選択し、ドライバーとして [Kodak Scanner i1405/i1410/i1420/i1440] を選択します。

[Scan Validation Tool] ダイアログボックスが表示されます。



[Scan Validation Tool] ダイアログボックス

Scan Validation Tool (SVT) はコダックが提供する診断アプリケーションです。SVT のユーザーインターフェースを使用すると、スキャナーのすべての機能にアクセスできるので、スキャナーが正常に動作しているかどうか効率的にチェックできます。Scan Validation Tool を使用すると、TWAIN データソース /ISIS ドライバーを使用してスキャナーの機能を検証できます。



[ツールバー] ボタン



セットアップ — 選択されたドライバー用のユーザーインターフェースを表示します。



保存先 — スキャンしたイメージを保存するディレクトリとファイル名を選択します。このオプションは、[イメージをファイルに保存] を選択した場合に利用できます。



スキャン開始 — 入力トレイにある原稿をスキャンします。



1 ページスキャン — 1 ページだけスキャンします。



停止 — スキャンを終了します。



ライセンスキー — [ライセンスキー] ウィンドウを表示します。



表示モード (イメージなし) — イメージビューアーウィンドウを閉じます (イメージは表示されません)。



表示モード (1 イメージ) — 1 回に 1 枚のイメージを表示します。



表示モード (2 イメージ) — 1 回に 2 枚のイメージを表示します。



表示モード (4 イメージ) — 1 回に 4 枚のイメージを表示します。



表示モード (8 イメージ) — 1 回に 8 枚のイメージを表示します。

イメージをファイルに保存 — 選択すると、指定したディレクトリにイメージが保存されます。

イメージ枠（指定数ごと）— スキャン中に表示するイメージのサンプリングレートを入力します。たとえば、すべてのイメージを表示する場合は「1」を入力します。イメージを 10 個おきに表示する場合は「10」を入力します。

[合計]— 現在の [Scan Validation Tool] セッションでスキャンされたイメージの総数を表示します。

- ISIS ドライバーの TWAIN データソースにアクセスするには、[Scan Validation Tool] ダイアログボックスの**セットアップアイコン**をクリックし、**コダックスキャナーメインウィンドウ**にアクセスします。

[最後のファイル]— 最後に保存したイメージの完全パスとファイル名を表示します。

TWAIN データソースの使用

コダック i1400 シリーズスキャナーでは、さまざまな電子イメージが生成できます。お使いのスキャンアプリケーションと連携動作する、コダックが提供する TWAIN データソースを使用します。TWAIN データソースは、お使いのスキャンアプリケーションにスキャナーをリンクさせるスキャンシステムの一部です。

TWAIN データソースを使用する場合、スキャナーメインウィンドウには [設定のショートカット] が一覧表示されます。それぞれの [設定のショートカット] は特定のイメージとデバイス設定のグループです。用意された [設定のショートカット] には、さまざまな入力原稿で使用される、一般的な電子イメージの出力が定義されています。どの [設定のショートカット] も希望に満たない場合は、カスタマイズした設定のショートカットを作成できます。たとえば、「請求書」という名前の設定ショートカットを作成し、請求書をスキャンする場合は [設定のショートカット] を選択するだけでスキャンできます。

ISIS ドライバーを使用している場合は、「ISIS ドライバーの使用」で詳細を確認してください。

このマニュアルでは、コダック i1405/i1420/i1440 スキャナー（両面スキャナー）の機能を制御するためのダイアログボックスを使用しています。コダック i1410 スキャナー（片面スキャナー）を使用している場合は、片面スキャン用のオプションしか使用できません。

開始方法

最終的な目的は、できるだけ簡単にスキャン処理を実行することにあります。これは、コダックスキャナーメインウィンドウから [設定のショートカット] を選択し、[OK]/[スキャン] を選択して実行します。

このスキャナーではすでに [設定のショートカット] がいくつか定義されています。ほとんどの場合、これらのショートカットで必要なすべての作業を実行できます。別の設定が必要な場合は、独自のショートカットを作成する必要があります。作成したショートカットは [設定のショートカット] のリストに追加され、以降のスキャンに使用できます。

設定するオプションの大半は、以下の 2 つのウィンドウにあります。

- **イメージ設定** : コダックスキャナーメインウィンドウの [設定] ボタンをクリックすると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。このウィンドウの [一般]、[サイズ]、[調整]、[拡張機能] タブを使って、イメージ処理パラメーターを設定することができます。また、[デバイス] ボタンをクリックしてデバイス設定を行ったり、[詳細イメージセットアップ] アイコンをクリックして詳細設定を行うこともできます。
- **デバイス設定** : [デバイス] ボタンは、イメージ設定ウィンドウにあります。[デバイス] を選択すると、[一般] タブおよび [重送検知] タブにアクセスできます (ドキュメントプリンターがインストールされている場合は [プリンター] タブ)。デバイス設定ウィンドウでは、[診断] にアクセスすることもできます。

以降の手順は、ショートカットの設定方法について説明しています。コダックスキャナーメインウィンドウの各機能とオプションの詳細な説明は、「コダックスキャナーメインウィンドウ」を参照してください。

注 : 設定のショートカットの設定が、スキャンアプリケーションの設定に優先することがあります。このような場合、そのショートカットがコダックスキャナーメインウィンドウに斜体で表示され、その隣に < 変更済み > と表示されます。設定のショートカットを使用せず、まず個人設定をスキャナーにダウンロードしてから、TWAIN データソースにアクセスするアプリケーションで、このような状況が発生します。

[OK] をクリックしてスキャンを開始すると、設定の変更を保存するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。設定のショートカットを使わないアプリケーションを利用する場合は、この質問に対して [いいえ] を選択してから、スキャンを行ってください。

イメージ設定の選択

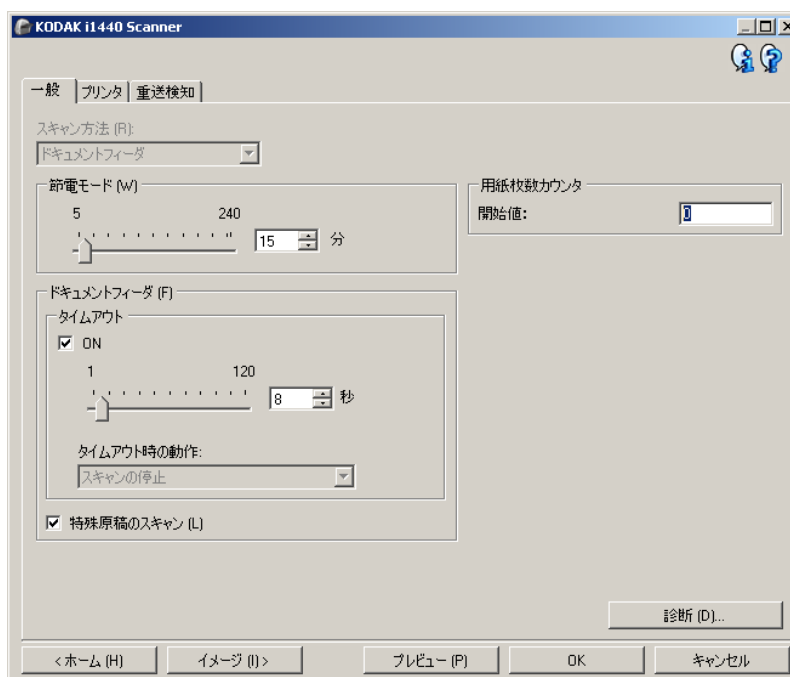
コダックスキャナーメインウィンドウから、以下の作業を行います。



1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力に最も近い内容の **[設定のショートカット]** を選択します。
 2. スキャナーメインウィンドウから、**[入力原稿のタイプ]** を選択します。
 3. **[設定]** を選択して、イメージ設定ウィンドウを表示します。
 4. 設定内容を変更する前に、イメージ設定ウィンドウの各タブをクリックして、どのようなオプションや機能があるかを確認します。
 5. スキャン時に実行する各オプションを適切に選択します。
 6. 選択したオプションによって、どのような効果が現れるかを確認する場合は、次の操作を実行します。
 - スキャナーの入カトレイに原稿を1枚セットします。
 - **[プレビュー]** を選択して、プレビュースキャンを実行します。
- 注：表示されたイメージの品質に満足できない場合は、別の **[設定のショートカット]** を利用して設定を変更するか、もう一度イメージ設定ウィンドウの各タブを確認しながら現在の **[設定のショートカット]** を調整します。この手順は必要に応じて繰り返します。
7. 設定が完了したら、**[ホーム]** を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、**[保存]** を選択してショートカットへの設定内容を保存します。

デバイス設定の選択

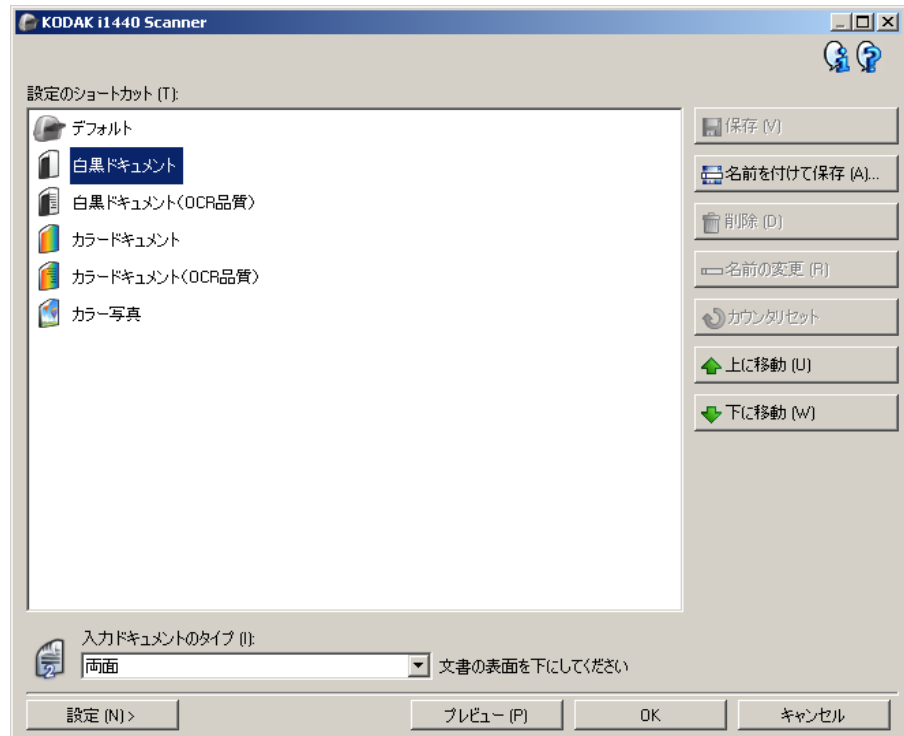
1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力に最も近い内容の **[設定のショートカット]** を選択します。
2. **[設定]** を選択して、イメージ設定ウィンドウを表示します。
3. **[デバイス]** を選択します。デバイス設定ウィンドウが表示されます。



4. 設定内容を変更する前に、デバイス設定ウィンドウの各タブをクリックして、どのようなオプションや機能があるかを確認します。これらの機能の詳細は、「デバイス設定ウィンドウ」を参照してください。
5. スキャン時に使用する機能を決定し、それに応じた適切なタブを選択します。
6. それぞれのタブで、スキャナーに実行させる適切なオプションや機能を選択します。
 - 設定が完了したら、**[ホーム]** を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、**[保存]** をクリックしてショートカットへの設定内容を保存します。

コダックスキャナーメインウィンドウ

コダックスキャナーメインウィンドウは、スキャナーのユーザーインターフェースのホームウィンドウです。[設定のショートカット]、[OK]、[スキャン]の順に選択するだけでスキャンできます。



[設定のショートカット]— 現在定義されている設定のショートカットが一覧表示されます。次のショートカットが用意されています。

- デフォルト — スキャナーのデフォルト設定
- 白黒パーフェクトページ原稿
- カラーパーフェクトページ原稿
- カラー写真
- [設定のショートカット]を変更してその変更を保存していない場合、[設定のショートカット]に<変更済み>というテキストが付き、名前が斜体で表示されます（例：* デフォルト<変更済み>）。



入力原稿のタイプ — 原稿のどちらの面の電子イメージの情報を出力するかを選択できます。

- 両面：原稿の両面をスキャンします。
- 片面 - 表：原稿の表面のみスキャンします。
- 片面 - 裏：原稿の裏面のみスキャンします。

注：

- 入力トレイではスキャンする原稿の面を下にセットしてください。
- [両面] および [片面-裏] オプションは、両面スキャナーモデルでのみ利用できます。

保存 — 選択した [設定のショートカット] に対して行った変更を保存します。これはユーザーが作成したショートカットに対してのみ使用できます。

名前を付けて保存 — [名前を付けて保存] ウィンドウが表示され、現在の設定を新しい [設定のショートカット] として保存します。

削除 — 選択した [設定のショートカット] を削除します。この場合、確認を求めるメッセージが表示されます。これはユーザーが作成したショートカットに対してのみ使用できます。

名前の変更 — [設定のショートカット] の名前を変更できる [名前の変更] ウィンドウを表示します。これはユーザーが作成したショートカットに対してのみ使用できます。

リセット — 選択した [設定のショートカット] への変更を元に戻します。これはユーザーが変更したショートカットに対してのみ使用できます (例: <変更済み> というテキスト付きの斜体のショートカット)。

復元 — [復元] ウィンドウを表示して、スキャナーのあらかじめ用意されたショートカットに対して行った変更を元に戻すことができますようにします。これは用意されたショートカットが変更または削除された場合にのみ使用できます。

インポート — いずれかの設定のショートカットのセットをインポートして、現在のショートカットをすべて置き換えます。このオプションを選択すると、確認を求めるメッセージが表示され、インポートするショートカットセットが選択できる OS の [ファイルを開く] ウィンドウが表示されます。

エクスポート — 現在の設定のショートカットをすべてショートカットセットにエクスポートします。このオプションを選択すると、ショートカットセットのフォルダー名とファイル名が選択できる OS の [名前を付けて保存] ウィンドウが表示されます。

上に移動 — 選択した設定のショートカットを、リスト中の1つ上の場所に移動します。設定のショートカットを移動すると、再び移動しない限り、移動先の場所にそのショートカットが表示されます。

下に移動 — 選択した設定のショートカットを、リスト中の1つ下の場所に移動します。設定のショートカットを移動すると、再び移動しない限り、移動先の場所にそのショートカットが表示されます。

注：

- **削除、名前の変更、復元、インポート、エクスポート**は、選択した**設定のショートカット**が変更中（例：名前が斜体で < 変更済み > が付いている）の場合には使用できません。
- **設定のショートカットを移動**すると、再び移動しない限り、移動先の場所にそのショートカットが表示されます。
- 別の PC に**設定のショートカット**を転送する場合：転送するショートカットがある PC で **[エクスポート]** を選択し、その後別の PC で **[インポート]** を選択します。
- 既存のショートカットセットに**設定のショートカット**を追加する場合：1) **[インポート]** を選択してショートカットセットをロードします。2) 新しい**設定のショートカット**を作成します。3) **[エクスポート]** を選択してショートカットセットを置き換え、同じ名前を使用して保存します。

設定 — **[イメージ設定]** ウィンドウで、選択した **[設定のショートカット]** を変更することができます。このウィンドウから、デバイス設定および診断ウィンドウにもアクセスできます。

プレビュー — スキャンを開始すると、スキャンされたイメージを表示したイメージ設定ウィンドウが、プレビュー領域に表示されます。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づくサンプルです。

OK/ スキャン — このオプションを選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

注：このボタンが **[OK]** の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションの影響を受けます。

キャンセル — 変更内容を保存せずに、スキャナーメインウィンドウを閉じます。

情報アイコン



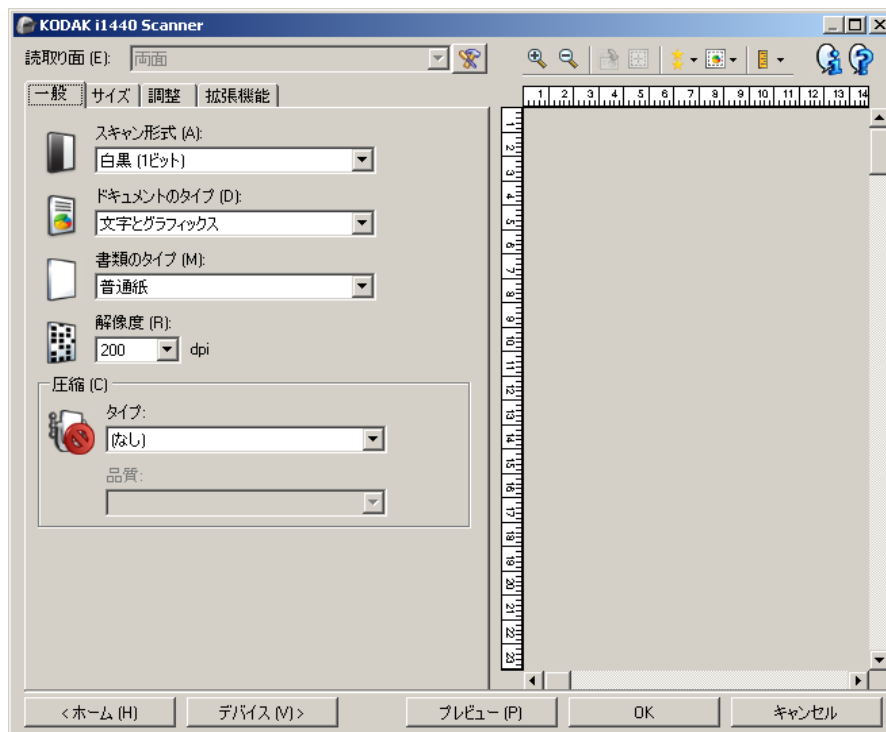
バージョン情報：スキャナーのバージョンと著作権情報を表示します。



ヘルプ：現在表示されているウィンドウのヘルプ情報を表示します。

イメージ設定ウィンドウ

このウィンドウから、利用可能なタブを使用してイメージ処理オプションを定義できます。イメージ設定に使用される値は、選択された設定のショートカットに保存されます。イメージ設定ウィンドウには、[一般]、[サイズ]、[調整]、[拡張機能]の4つのタブがあります。



読取り面 — 設定する読取り面とイメージを選択できます（例：表面、裏面、両面：カラー（24 ビット）など）。すべてのイメージ設定は、選択されたイメージに適用されます。








注：

- [読取り面] オプションは、詳細設定が [詳細] タブで選択された場合のみ利用できます。
- [両面] および [裏面] オプションは、両面スキャナーモデルのみ利用できます。



詳細イメージセットアップ：[詳細] タブを表示します。

[ツールバー] ボタン

	<p>ズームイン：プレビュー領域に現在表示されているイメージを拡大します。</p>
	<p>ズームアウト：プレビューウィンドウに現在表示されているイメージを縮小します。</p>
	<p>アウトラインを回転：アウトラインを 90 度回転します。 注：このオプションは、回転されたアウトラインがスキャナーの最大幅までに適合する場合のみ使用できます。</p>
	<p>アウトラインを中央に配置：アウトラインがスキャナーの最大幅の中央に配置されるように、アウトラインの X 原点を調整します。</p>
	<p>プレビューの品質：スキャンイメージの品質を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 通常：イメージを低解像度で表示します。 • 高：実際のイメージに最も近い品質で表示します。このオプションを選択した場合、[プレビュー] ウィンドウに表示されるイメージは、最終的に出力されるイメージに近いものになります。 <p>注：原稿の内容に応じて、イメージが実際のように表示されるよう、拡大表示する必要がある場合があります。</p>
	<p>プレビューの自動更新：表示されるイメージの更新方法を選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オン：自動的に設定変更の結果を反映して表示されます。ほとんどの場合、原稿を再スキャンする必要はありません。再スキャンが必要な場合は、原稿をもう一度挿入するようメッセージが表示されます。 • オフ：もう一度プレビュースキャンを実行するまで表示されるイメージは更新されません。
	<p>単位：スキャナーの測定値の単位を選択します。これには、プレビューウィンドウとサイズ関連オプションが含まれます。[単位] オプションは、[インチ]、[センチメートル]、[ピクセル] が使用できます。</p>

プレビューウィンドウ

プレビュー領域ウィンドウに表示されるイメージは、現在のショートカット設定に基づくサンプルです。プレビュースキャンの実行後に、このウィンドウにイメージが表示されます。

• **アウトライン**：[原稿：マニュアル指定]または[イメージ：原稿の一部]を[サイズ]タブから選択すると、現在の[アウトライン]選択項目が表示されます。アウトラインがプレビューイメージと位置が合っていない場合、マウスを使用してアウトラインのサイズと位置を調整できます。マウスのカーソルをアウトラインの回りで移動させると、カーソルが変化し、マウスの左ボタンを押し続けるとアウトラインを変更できます。

- **移動**：カーソルをアウトライン内に置くと、アウトラインの位置を調整できます。

- **角**：グラフィックの四隅の1つにカーソルを置くと、2つの辺を同時に調整できます。



- **辺**：グラフィックの四辺の1つにカーソルを置くと、その辺を調整できます。



- **回転**：回転のグラフィックの上にマウスカーソルを置くと、アウトラインの角度を調整できます。

ホーム — スキャナーメインウィンドウに戻ります。

デバイス — [デバイス設定]ウィンドウを表示します。

プレビュー — スキャンを開始し、プレビューウィンドウにイメージを表示します。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づくサンプルです。

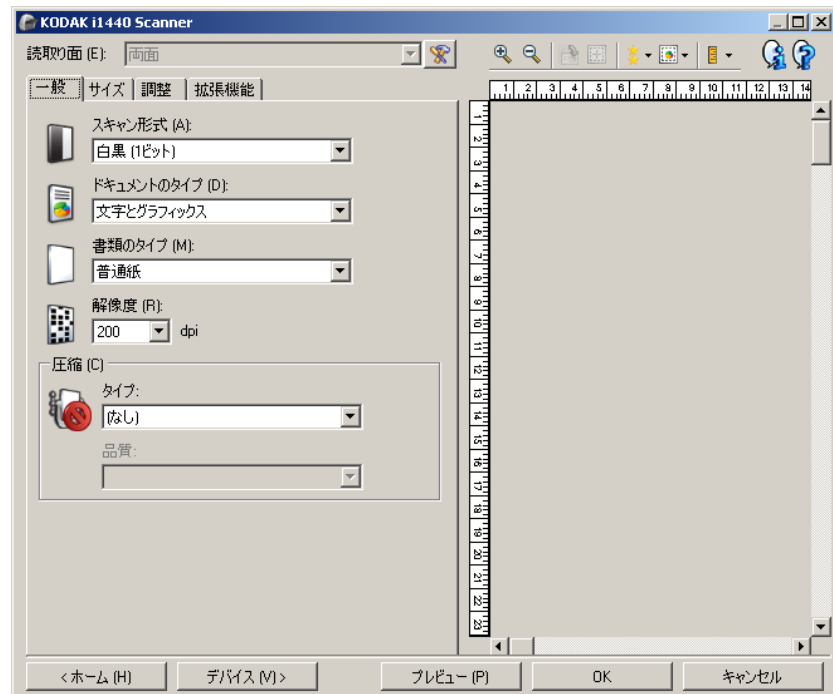
OK/スキャン — このオプションを選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

注：このボタンが **[OK]** の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションの影響を受けます。

キャンセル — 変更内容を保存せずに、スキャナーメインウィンドウを閉じます。

[一般] タブ

[一般] タブには一般的に使用されるイメージオプションが含まれています。ほとんどの場合、他のタブのオプションを変更する必要はありません。



スキャン方法 — 電子イメージのフォーマットを選択できます。

- **カラー (24 ビット)** : カラーイメージを生成します。
- **グレースケール (8 ビット)** : グレースケールイメージを生成します。
- **白黒 (1 ビット)** : 白黒イメージを生成します。

注 : [スキャン方法] オプションは、[読取り面あたりのイメージ数 : 1] が [詳細] タブで選択されている場合にのみ使用できます。

原稿のタイプ — 原稿の内容のタイプを選択します。

- **文字とグラフィックス** : 文書、グラフィック (棒グラフ、円グラフなど)、線画などが混在している原稿の場合に選択します。
- **文字** : 文字原稿の場合に選択します。
- **写真** : 写真が主体の場合に選択します。

用紙のタイプ — スキャンする用紙の素材や重量に基づいてタイプを選択します。オプションは、**普通紙**、**薄紙**、**光沢紙**、**カードストック**、**雑誌**です。

解像度 — 1 インチあたりのドット (dpi) の数を指定します。この値は、スキャンしたイメージの画質に大きく影響します。また、スキャン時間やイメージサイズにも影響します。オプションは、75、100、150、200、240、250、300、400、600、1200 dpi です。

注 : このオプションは [プレビュー品質] が [標準] に設定されている場合は適用されません。

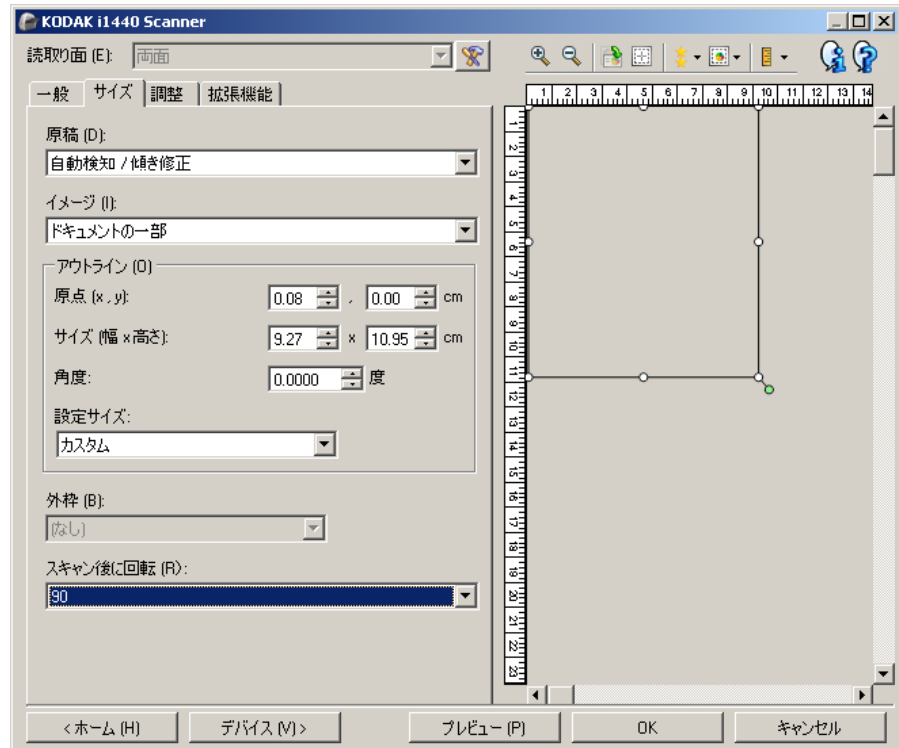
圧縮 — 電子イメージのサイズを縮小できます。

- **タイプ** : 圧縮の種類を選択します。
 - **(なし)** : 圧縮しません。サイズの大きなイメージが生成されます。
 - **グループ -4** : 白黒イメージを圧縮する CCITT 標準を使用します。通常は、TIFF ファイルと組み合わせて利用されます。
 - **JPEG** : JPEG 技術を使って、カラー / グレースケールイメージを圧縮します。
注 : [グループ -4] オプションと [JPEG] オプションは、[スキャン方法] で [白黒 (1 ビット)] を選択した場合のみ使用できます。

- **品質** — JPEG 圧縮を選択した場合に、いずれかの品質オプションを選択します。このオプションはプレビューイメージには適用されません。
 - **ドラフト** : 圧縮率を最大にして最小サイズのイメージを生成します。
 - **標準** : 標準的な圧縮率ですが、満足いく品質のイメージが生成されます。
 - **高** : 一部圧縮され、良い品質のイメージが生成されます。
 - **最高** : 最小圧縮率で非常に良い品質のイメージが生成されます。
 - **高品質** : 最小の圧縮率で最大サイズのイメージが生成されます。

[サイズ] タブ

[サイズ] タブでは、イメージの出力に関する値を定義できます(クロッピング値、用紙サイズなど)。



原稿 — スキャナーから搬送中の原稿を検知する方法を選択します。

- **自動検知 / 傾き修正** : 各原稿を（サイズに関係なく）自動的に検知し、斜めに搬送された原稿の傾きを補整します。
- **自動検知** : 各原稿を（サイズに関係なく）自動的に検知します。原稿が斜めに搬送されても、補正されません。
- **マニュアル指定** : [アウトライン] オプションで指定する領域に基づきイメージが返されます。同一サイズの原稿を含むスキャンジョブに対してのみこのオプションを使用してください。

イメージ — 原稿のどの部分を電子イメージの作成に使用するかを選択します。

- **原稿全体** : [原稿 : 自動検知 / 傾き修正]、[原稿 : 自動検知]、または [原稿 : マニュアル指定] を選択すると、原稿全体を返します。
- **原稿の一部** : [原稿 : 自動検知 / 傾き修正] を選択すると、[アウトライン] オプションで指定する原稿の一部を返します。

アウトライン — 電子イメージの作成に使用する位置とサイズを選択します。プレビューウィンドウにアウトラインが表示されます。

• **原点 (x、y) :**

- **[原稿：自動検知 / 傾き修正]** を選択すると、(x) は原稿の左端からの距離、(y) は原稿の上端からの距離になります。
- **[原稿：マニュアル指定]** を選択すると、(x) はスキャナーの搬送路の左端からの距離、(y) はスキャナーで検知された原稿の先端からの距離になります。

• **サイズ (幅 x 高さ) :** **[原稿：自動検知 / 傾き修正]** または **[原稿：マニュアル指定]** を選択すると、これが電子イメージの幅と高さになります。

注：アウトラインがスキャンされた原稿の長さを超える場合、電子イメージは指定された長さよりも短くなる場合があります。

• **角度 :** アウトラインの角度を選択できます。

• **設定サイズ :** 一般的に使用される用紙サイズのリストが表示されます。このリストから項目を選択すると、自動的にアウトラインのサイズがその用紙のサイズに設定されます。アウトラインサイズがリストのどのサイズとも一致しない場合、**[カスタム]** が表示されます。

注：マウスを使用してプレビューウィンドウに表示されるアウトラインを調整することもできます。

外枠 — 電子イメージの端で実行するアクションを選択できます。

• (なし)

• **追加 :** イメージの 4 辺に最大約 0.254 cm (0.1 インチ) 幅の黒枠が含まれます。

注：このオプションは、**[原稿：自動検知]** および **[原稿：マニュアル指定]** では使用できません。

• **削除 :** 外枠を削除して、原稿に含まれるイメージのみを生成します。外枠は原稿の端の振れにより生じます。たとえば、原稿が完全な四角形でない場合や、歪んで搬送された場合などです。

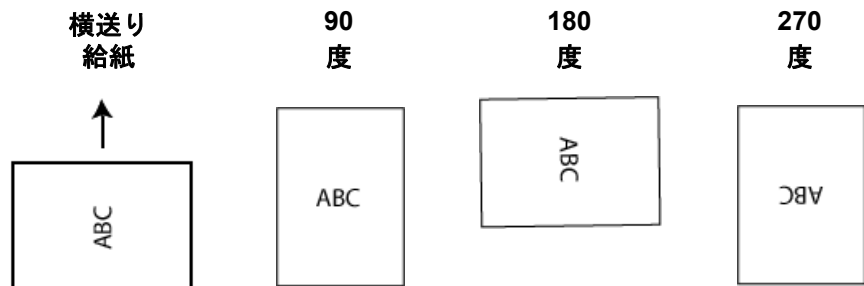
注：

- このオプションで外枠の大部分が削除されない場合、若干の文書情報が失われる可能性があります。
- このオプションは **[原稿：自動検知 / 傾き修正]** および **[イメージ：原稿全体]** がどちらも選択されている場合のみ使用できます。

スキャン後に回転 — スキャン後に電子イメージに適用される角度を選択できます。

- (なし)
- **自動** — スキャナーが各原稿の文字方向を分析して、イメージを適正な方向に回転します。
- **90、180、270 度** — 回転する角度を指定します。

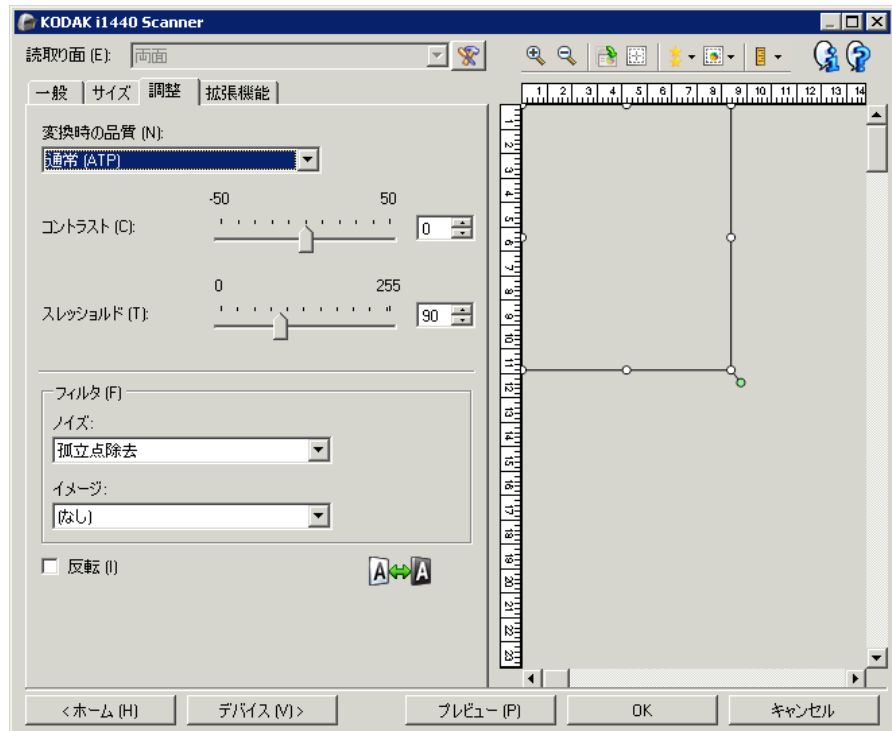
次の例は、これらの設定が横方向にスキャンされた原稿にどのように影響するかを表します。



注：このオプションはプレビューイメージには適用されません。

[調整] タブ：白黒

[調整] タブで利用できるオプションは、[一般] タブの [スキャン方法] の選択項目により異なります。以下のオプションは、[スキャン方法] で [白黒] を選択した場合に基づきます。



変換時の品質 — これらの設定は、白黒の電子イメージを生成するために使用する、グレースケール原稿の解析方法に影響します。

- **ベスト (iThresholding)** : 原稿ごとに解析して、最高品質のイメージを生成します。単一の設定では画質が異なる原稿（文字のかすれ、影のある背景、カラーの背景など）を混在スキャンすることができます。
- **ノーマル (ATP)** : 目的の画質を生成するための最適な設定を選択できます。このオプションは単一の設定で原稿をスキャンする際に最適です。また、目標とする画質を生成する [ベスト] 選択時に [コントラスト] 設定が見つからないような扱いにくい原稿をスキャンする場合には、このオプションが役に立つ場合もあります。
- **ドラフト (固定)** : ピクセルが白か黒かを判断するために使用するグレースケールのしきい値を選択します。このオプションは、コントラストの高い原稿に最適です。

コントラスト — イメージをより鮮明にまたはソフトにします。この設定値を小さくすると、イメージがやわらかくなり、イメージ中のノイズが除去されます。この設定値を大きくすると、イメージがより鮮明になり、薄いイメージがわかりやすくなります。オプションの範囲は **-50 ~ 50** です。デフォルト値は **0** です。

注：これは、[変換時の品質：ベスト] および [変換時の品質：ノーマル] の場合のみ使用できます。

スレッシュホールド — ピクセルを黒または白と認識するレベルを設定します（1 ビット / ピクセル）。この設定値を小さくすると、イメージがより薄くなり、背景を抑えることができます。この設定値を大きくすると、イメージが濃くなります。また、薄いイメージを取り込みやすくなります。このオプションには、0 ～ 255 の値を指定することができます。デフォルトは 90 です。

注：これは、[*変換時の品質* : ベスト] および [*変換時の品質* : ノーマル] の場合のみ使用できます。

フィルター

• ノイズ

- (なし)
- **孤立点除去** : 白ピクセルで完全に囲まれている単一の黒ピクセルを白へ変換するか、黒ピクセルで完全に囲まれている単一の白ピクセルを黒へ変換することにより、ランダムノイズを減らします。
- **マジョリティールール** : 各ピクセルをその周辺全域のデータに基づき設定します。ピクセルは周辺全域ピクセルの多数が白の場合白になり、黒の場合は黒になります。

• イメージ

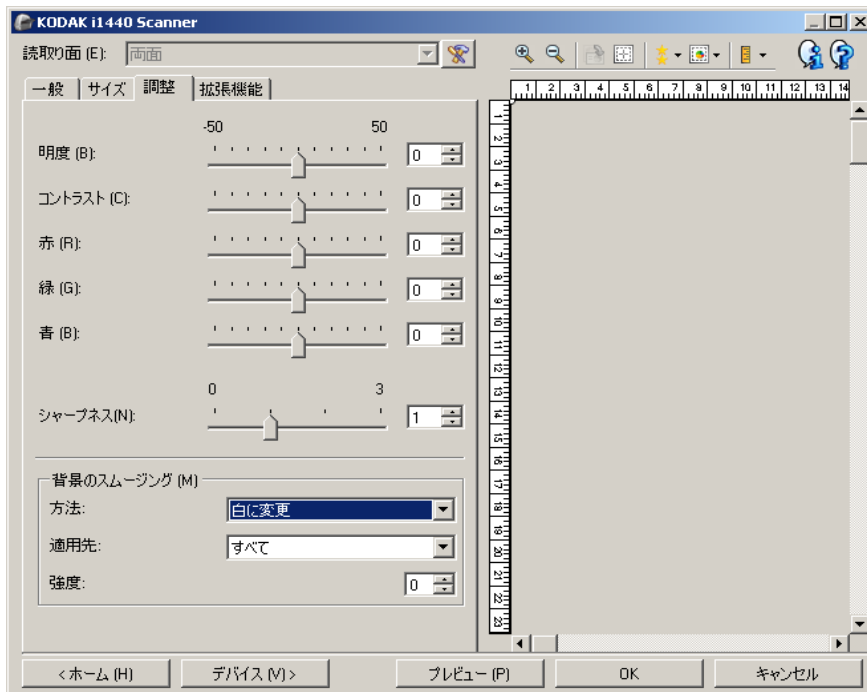
- (なし)
- **ハーフトーン除去** : ハーフトーンスクリーンを使ったドットマトリックステキストおよびイメージ（新聞の写真など）の見栄えを良くします。

反転 — 黒ピクセルがイメージ内に保存される方法を選択できます。デフォルトでは、黒ピクセルは黒として、白ピクセルは白として保存されます。黒ピクセルを白として、白ピクセルを黒として保存する場合は、このオプションを有効にします。

[調整] タブ: カラー/グレースケール

[調整] タブで利用できるオプションは、[一般] タブの [スキャン方法] の選択項目により異なります。以下のオプションは、[スキャン方法] で [カラー] または [グレースケール] を選択した場合に基づきます。

注: ほとんどのオプションには、追加の設定があります。これらの設定は、オプションがオンの場合にのみ表示されます。すべての設定が画面に収まらない場合、すべての設定にアクセスできるようにスクロールバーが表示されます。



明度とコントラスト

- (なし)
- **自動**: 各イメージを自動的に調整します。
- **手動**: すべてのイメージで使用する特定の値を設定できます。
 - **明度** - カラー/グレースケールイメージ中の白の量を変更します。値の範囲は **-50 ~ 50** です。
 - **コントラスト** - イメージをよりシャープにしたりよりソフトにします。値の範囲は **-50 ~ 50** です。

カラーバランス

- (なし)
- **自動**：各原稿の白い背景を純白に調整します。このオプションを使用すると、用紙ごとの厚さやブランドの違いによる白の差異を補うことができます。このオプションは写真に対して使用しないことを推奨します。
- **自動 - 詳細**：[自動] オプションをより詳細に調整する場合に使用します。
 - **強度** - 差異の度合いを調整できます。値を大きくすることで、古くなって黄ばんだ原稿に対応できます。値の範囲は **-2 ~ 2** です。
- **手動**：すべてのイメージで使用する特定の値を設定できます。
 - **赤** - カラーイメージ中の赤の量を変更します。値の範囲は **-50 ~ 50** です。
 - **青** - カラーイメージ中の青の量を変更します。値の範囲は **-50 ~ 50** です。
 - **緑** - カラーイメージ中の緑の量を変更します。値の範囲は **-50 ~ 50** です。

注：カラーバランスはグレースケールイメージでは無効です。

シャープネス - イメージ内の境界線のコントラストを増やします。

- (なし)
- **標準**
- **高**
- **強調**

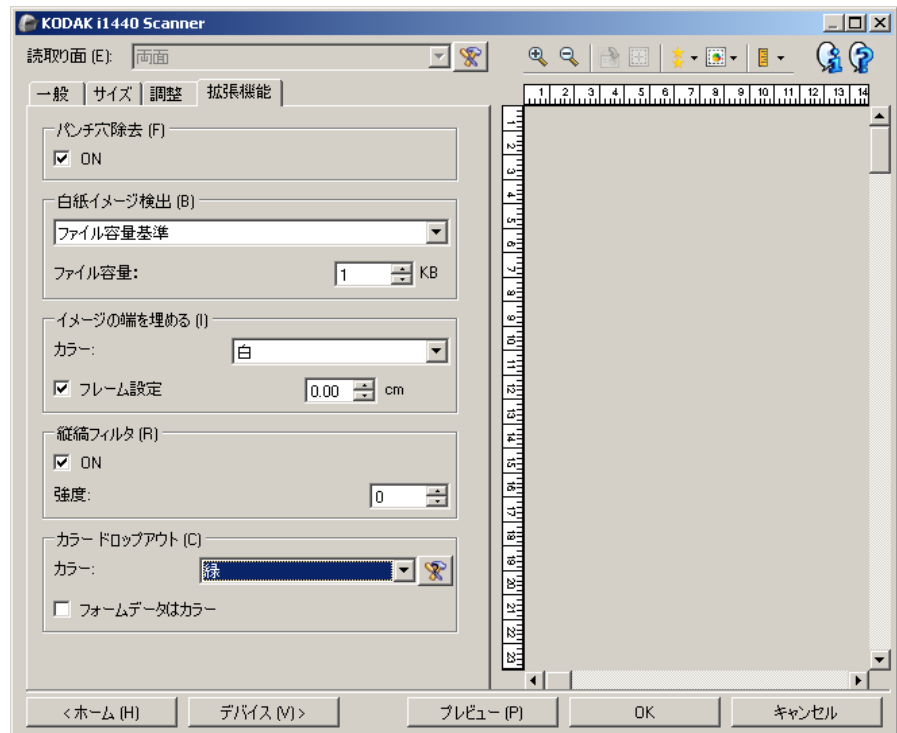
背景のスモーキング — 背景色のある原稿やフォームをスキャンする場合にこのオプションを使用すると、背景色がより均一なイメージが生成されます。このオプションを利用すると、イメージ品質を向上しながら、ファイルサイズを軽減できます。

- (なし)
- **自動**：背景色を3色までスモーキングします。
- **自動 - 詳細**：[自動] オプションをより詳細に調整する場合に使用します。
 - **強度** - 強弱を調整して背景色を調整できます。値の範囲は **-10 ~ 10** です。

[拡張機能] タブ

[拡張機能] タブのオプションは、[一般] タブの [スキャン方法] の選択項目により異なります。


注：ほとんどのオプションには、追加の設定があります。これらの設定は、オプションがオンの場合にのみ表示されます。すべての設定が画面に収まらない場合、すべての設定にアクセスできるようにスクロールバーが表示されます。



パンチ穴除去 — 原稿の端の周囲にある穴を埋めることができます。埋められる穴のタイプは、丸、長方形、不定形（例、二重穴が開いている、またはバインダーから原稿を取り外した際にできた多少の裂け目など）です。[オン] を選択すると、パンチ穴除去機能が有効になります。

白紙イメージ検出 — スキャンアプリケーションに白紙のイメージが取り込まれないように設定できます。

- **(なし)**：すべてのイメージがスキャンアプリケーションに送信されます。
- **文字量基準**：イメージ内の原稿内容に基づきイメージが白紙であるかどうか判断されます。
 - **文字量**：スキャナーが白紙であると判断する内容の最大量を選択できます。内容量がこの値以上のイメージは白紙でないと判断され、スキャンアプリケーションへ送信されます。値の範囲は 0 ～ 100% です。

-  : [文字量] にはプレビューイメージの内容量が入力されます。サンプルの白紙原稿（レターヘッド付きの白紙シートなど）があれば、文字量を設定する際に参考になります（必要に応じて、プレビュースキャンを実行し、このボタンをクリックして、文字量を調整します）。

注：このオプションはプレビューイメージがある場合にのみ使用できます。

- **ファイル容量基準**：スキャンアプリケーションに送信されたイメージのサイズに基づいて、白紙であるかどうか判断されます（他のすべての設定が適用された後）。
 - **ファイル容量**：スキャナーが白紙でないと判断するイメージの最小サイズを選択できます。サイズがこの値以下のイメージは白紙と判断され、スキャンアプリケーションへ送信されません。値の範囲は、1 ~ 1000 KB（1 KB は 1024 バイト）です。

イメージの端を埋める — 最終的に出力される電子イメージの端の領域を、選択された色で埋めます。

- **カラー**：
 - (なし)
 - 白：イメージの端を白で埋めます。
 - 黒：イメージの端を黒で埋めます。
- **すべての読取面が一致**：このオプションをオンにすると、4 辺が等しく埋められます。このオプションは白黒に対してのみ使用できます。
- **上**：上端を埋める量を決定します。
- **左/右**：左のオプションは左端を埋める量を、右のオプションは右端を埋める量を決定します。
- **下**：下端を埋める量を決定します。

注：

- [上]、[左 / 右]、[下] の各オプションは、[すべての読取面が一致] が有効になっている場合は使用できません。
- [イメージの端を埋める] を使用する場合は、大きな値を入力しないよう注意してください。値が大きすぎると、イメージデータが塗りつぶされる場合があります。
- このオプションはプレビューイメージには適用されません。

縦縞フィルター — イメージから縦縞をフィルターするようにスキャナーを設定できます。縦縞とは、元の原稿には存在しないにもかかわらず、イメージに現れることがある線のことです。縦縞は、原稿上の汚れ、塵、擦り切れた端などが原因で発生するか、スキャナーの推奨清掃手順に従わなかったために発生する場合があります。

- **オン**：縦縞フィルター機能を使用します。
- **強度**：縦縞フィルターの強弱を調整します。値の範囲は -2 ~ 2 です。デフォルト値は 0 です。

カラードロップアウト — フォームの背景を消去するために使用します。背景が消去されると入力されたデータのみが電子イメージとして保存されます（フォームの線とボックスを削除など）。白黒イメージの場合、スキャナーが電子イメージの生成のために解析するグレースケールの原稿は、これらの設定に影響を受けます。

カラー

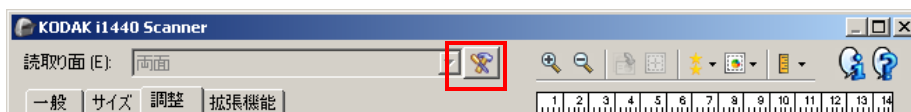
- (なし)
- 赤：赤をドロップアウトします。
- 緑：緑をドロップアウトします。
- 青：青をドロップアウトします。

注：[カラードロップアウト]オプションは、[スキャン方法]で[白黒]または[グレースケール]が選択されている場合にのみ利用できます。

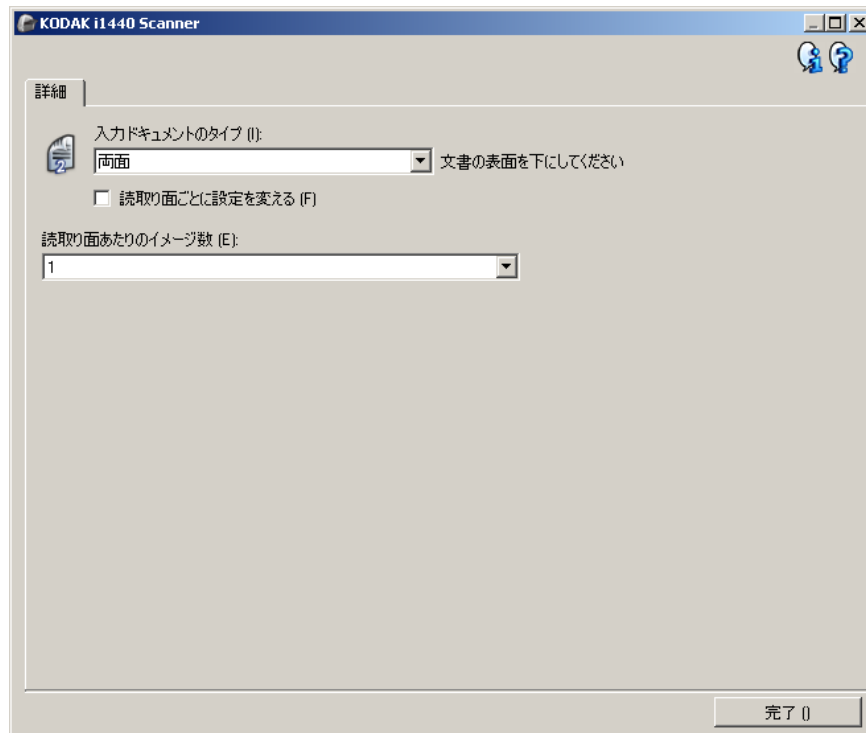
詳細イメージセットアップ

[詳細]タブ

[イメージの詳細設定]アイコンは、イメージ設定ウィンドウの上部にある、[読み取り面]ドロップダウンボックスの隣にあります。



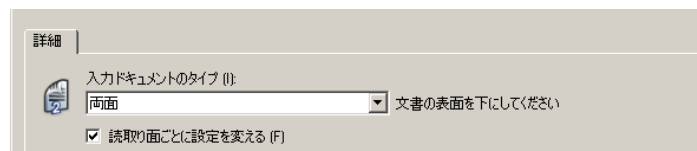
[詳細イメージセットアップ]アイコンを選択すると、[詳細]タブが表示されます。



入力ドキュメントのタイプ—設定する面に応じて、[両面]、[片面 - 表]、または [片面 - 裏] を選択します。

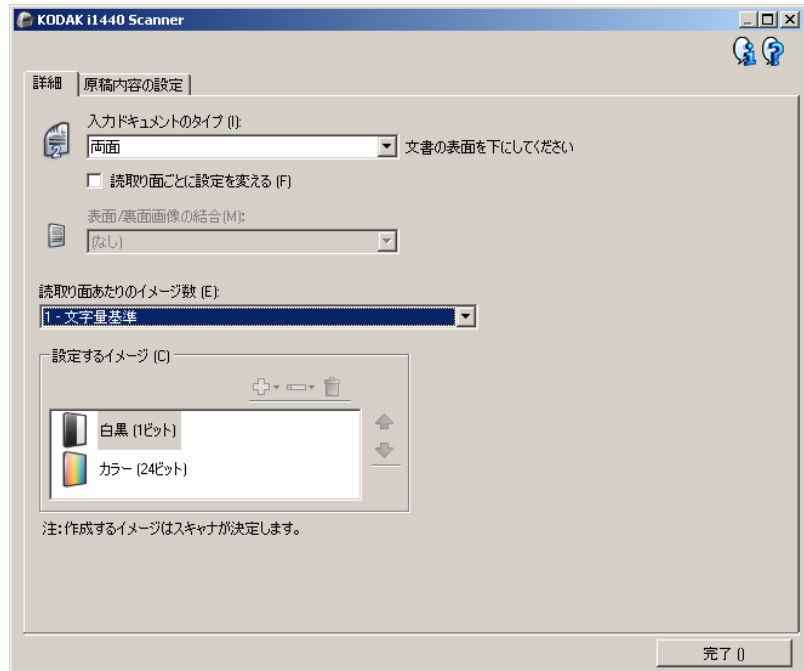
注： [両面] および [片面 - 裏] オプションは、両面スキャナーモデルのみ利用できます。

読み取り面ごとに設定を変える — デフォルトでは、選択した設定内容が両面のイメージに適用されます。スキャン原稿の各面に異なるイメージ処理設定を適用する場合に、このオプションを選択します。たとえば表面をカラー、裏面を白黒にしたい場合は、まず [入力ドキュメントのタイプ] ドロップダウンリストから [両面] オプションを選択し、次に [読み取り面ごとに設定を変える] のチェックボックスを選択します。



この操作を行うと、[イメージ設定]ウィンドウにある[読み取り面]オプションが有効になり、各読み取り面ごとに異なる設定を選択することができます。[読み取り面ごとに設定を変える]を有効にしているため、選択内容はスキャン対象原稿の表面にのみ適用されます。表面に関するオプションを選択し終わったら、[読み取り面]オプションから裏面を選択し、裏面に適用するオプションを設定していきます。

注：[読み取り面ごとに設定を変える]オプションは、両面スキャナーモデルでのみ有効です。



表面/裏面画像の結合 — 両面の各イメージを1つにしたイメージを作成する場合に使用されます。このオプションを有効にすると、原稿の表面と裏面を1つのイメージに結合します。オプションは以下のとおりです。

- **表面を上**：イメージ内で表面が裏面の上に表示されます。
- **表面を下**：イメージ内で裏面が表面の上に表示されます。
- **表面を左**：イメージ内で表面が裏面の左側に表示されます。
- **表面が右**：裏面のイメージが表面のイメージの右に配置されます。

注：

- このオプションは両面スキャナーでのみ使用できます。
- このオプションが使用できるのは、[入力ドキュメントのタイプ]が[両面]に設定されている場合、[読み取り面ごとに設定を変更]が選択されていない場合、[読み取り面あたりのイメージ数]が[1]に設定されている場合、ドキュメントフィードからスキャンが実行された場合に限られます。
- このオプションはプレビューイメージには適用されません。

読取り面あたりのイメージ数 — イメージ処理する選択項目に基づいて、読み取り面あたりに作成するイメージの数を示します。

- 1 : 1つのイメージが作成されます。
- 1 - 自動カラー検知 : 原稿によってカラー／グレースケールまたは白黒のいずれかを自動的に検知します。
- 1 - トグルパッチに依存 : トグルパッチがスキャンされるとカラー／グレースケールと白黒のスキャンが切り替ります。
- マルチ : 複数イメージが作成されます。

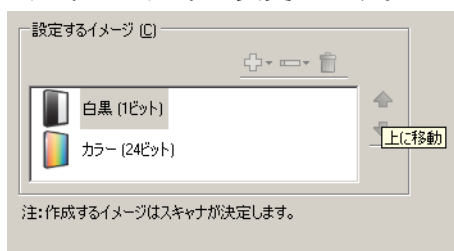
注 : [読取り面あたりのイメージ数] オプションから [1 - 自動カラー検知] を選択すると、[原稿内容の設定] タブが表示されます。

設定するイメージ — 設定するイメージを示します。

注 : [読取り面あたりのイメージ数] オプションから [1] 以外の項目を選択している場合にのみ、このオプションを使用できます。詳細オプションの設定方法は、次のセクションを参照してください。

- 原稿の内容に基づくカラー／グレースケールまたは白黒イメージの作成、例 1
- 原稿の各面に対する複数イメージの作成、例 2
- 原稿の両面にそれぞれ異なる設定を使用、例 3

スキャナーからスキャンアプリケーションにイメージを送る順番は、上矢印と下矢印で変更します。



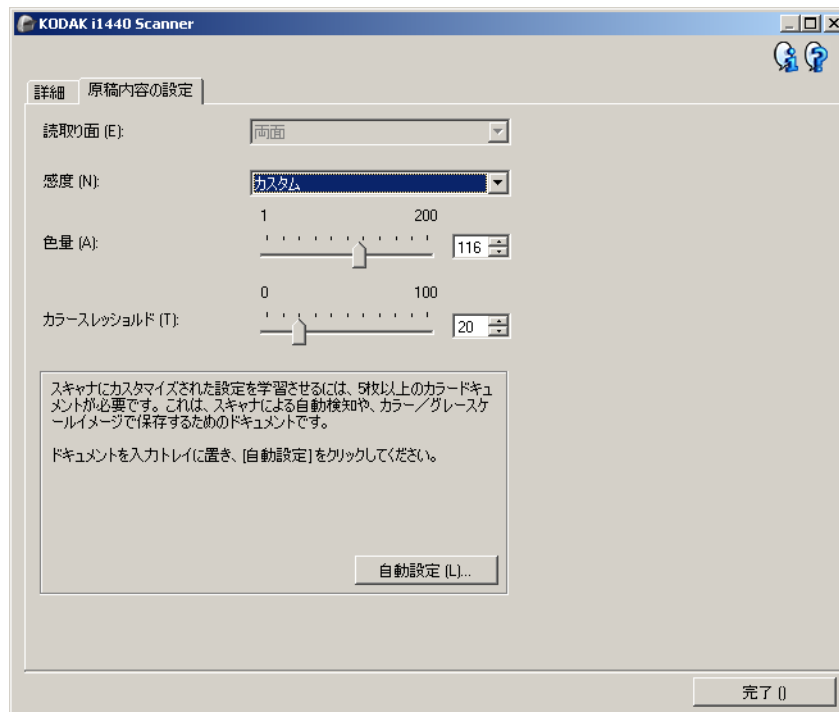
[ツールバー] ボタン :

	追加 : 設定リストの一番下にイメージを追加します。
	変更 : 現在選択されているイメージの種類を変更します。
	削除 : 選択したイメージの種類を削除します。

完了 — [イメージ設定] ウィンドウに戻ります。

[原稿内容の設定] タブ

[原稿内容の設定] タブのオプションは、片面または両面ジョブに使用することができます。



読取り面 — [感度] の設定を適用する面を指定します。このオプションは、[詳細] タブで [読取り面ごとに設定を変える] が選択されている場合のみ利用できます。

感度

- **低** : カラー／グレースケールイメージとして保存する場合に、スキャンする原稿の色の量が少ない場合に選択します。黒い文字と小さなロゴが主体原稿や、マーカの量や写真の色が少ない原稿をスキャンする場合に適します。
- **中** : カラー／グレースケールイメージとして保存する場合に、[低] オプションよりも色の割合が多い原稿の場合に選択します。
- **高** : カラー／グレースケールイメージとして保存する場合に、[中] オプションよりも、色の割合が多い場合に選択します。中～大規模のカラー写真などを多用している原稿に適します。中間色の割合が大きい写真を正しくスキャンするには、[カラーレッシュョルド] や [色量] 値の調整が必要になる場合があります。

- **カスタム**：マニュアルで [色量] や [カラーズレッシュヨルド] の値を調整することができます。

注： [感度] の値を設定する場合は、まず [中] オプションを選択してから、通常のスキャン作業でテストを試みることをお勧めします。白黒と比較して原稿の大半がカラー／グレースケールして返された場合は、[高] に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。白黒と比較してカラー／グレースケールとして返された原稿が少なすぎる場合には、[低] に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。以上のオプションで満足いく結果が得られなかった場合は、[カスタム] を選択してマニュアルで [色量] や [カラーズレッシュヨルド] を調整してください。[カスタム] を選択した場合、[自動設定] モードを使ってスキャナーに原稿を分析させ、推奨する設定値を算出させることもできます。

色量 — 原稿をカラー／グレースケールで保存する際に、原稿中に最低限必要なカラーの量です。[色量] の値を増やすと、必要とされるカラーピクセルの量も増加します。有効値は **1 ~ 200** です。

カラーズレッシュヨルド — 色量の算出時に特定の色を含めるための、カラーズレッシュヨルドまたは彩度（薄青と紺色の対比など）。値を増やすと、必要とされる彩度が高くなります。有効値は **0 ~ 100** です。

自動設定 — スキャンしたサンプルのカラー原稿に基づいて設定値を算出します。[自動設定] を選択する前に、入力トレイに 5 枚以上のカラー原稿をセットしてください。これらの原稿をスキャン、分析して推奨される [色量] が決定します。

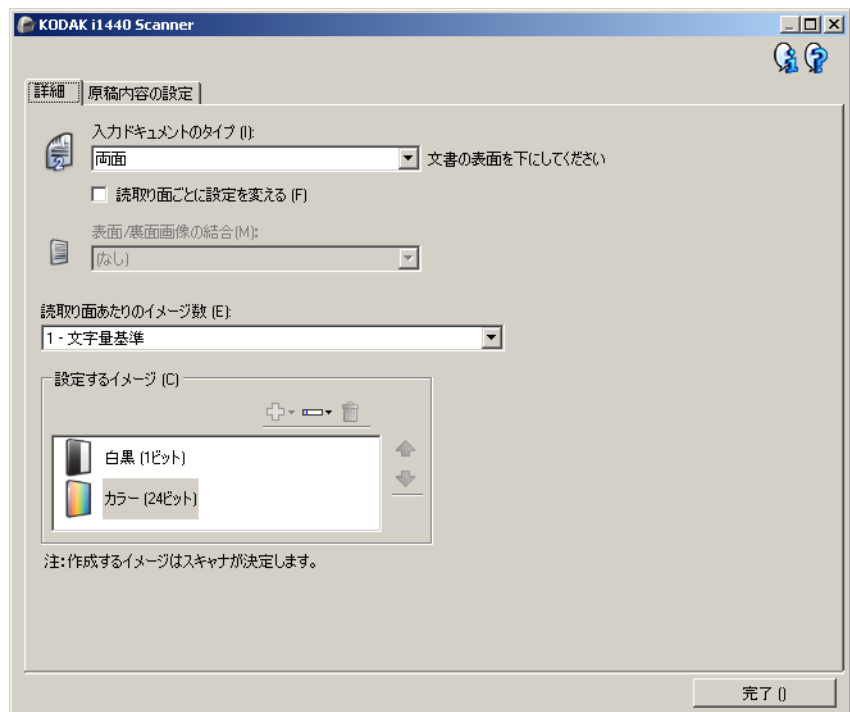
注： 計算に応じて [色量] と [カラーズレッシュヨルド] のスライダが自動的に調整されます。算出された値を使っても期待通りの結果にならない場合は [カラーズレッシュヨルド] の値をマニュアルで調整してください。

原稿の内容に基づくカラー/
グレースケールまたは白黒イ
メージの作成
例 1

この例では、両面に情報が印刷されたカラーと白黒原稿が混在するスキャンセッションを設定します。また、スキャンで原稿がカラーか白黒かを判断し、それに基づきカラーまたは白黒イメージが出力します。

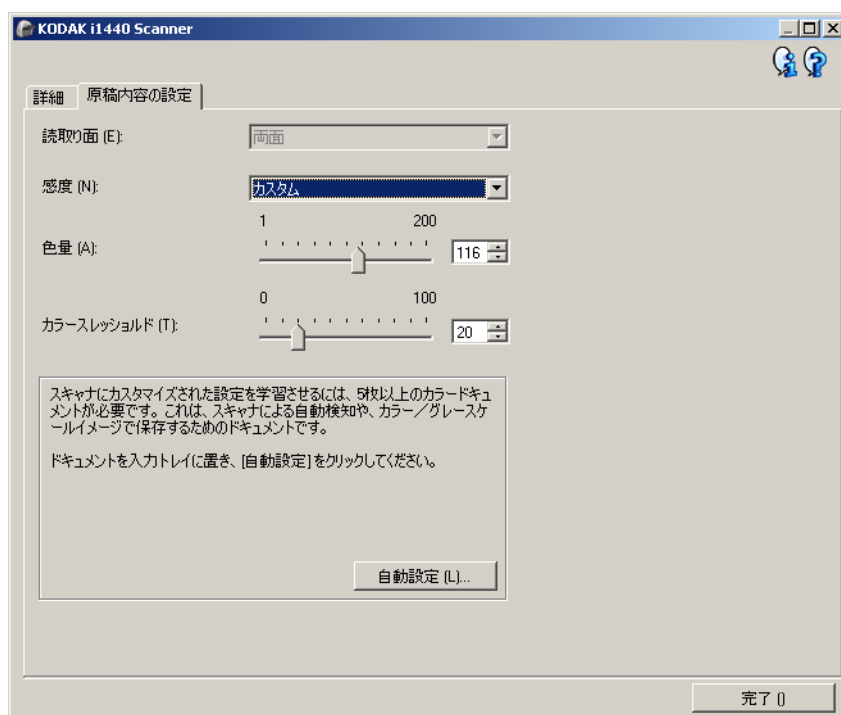
1. コダックスキャナーメインウィンドウから、[設定のショートカット]を選択し、現在の設定内容をさらに調整します。
2. [設定]を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
3. イメージ設定ウィンドウの[詳細イメージセットアップ]アイコンを選択すると、[詳細]タブが表示されます。
4. [入カドキュメントのタイプ] : [両面]を選択します。
5. [読取り面あたりのイメージ数] : [1 - 自動カラー検知]を選択します。

注 : [詳細] タブに [設定するイメージ] が表示され、[カラー]、[白黒] イメージ項目があります。[原稿内容の設定] タブも表示されます。



6. カラー原稿として検出されたが、カラーイメージではなくグレースケールイメージを取得する場合は、次の処理を行います。
 - [カラー (24 ビット)] を選択する
 - [変更] を選択してオプションのリストを表示する
 - [グレースケール] を選択する

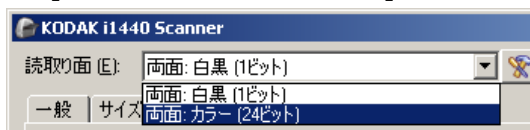
7. [原稿内容の設定] タブに移動します。



8. [感度] オプションを選択します。

9. [完了] をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。

注：[読み取り面] オプションで、[両面：カラー (24 ビット)]、および [両面：白黒 (1 ビット)] が選択できます。



10. [読み取り面:] で [両面：白黒 (1 ビット)] を選択します。

注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブと、カラーイメージ設定についてもそれぞれ調整します。

11. [読み取り面:] で [両面：カラー (24 ビット)] を選択します。

注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブで、カラーイメージ設定を調整します。

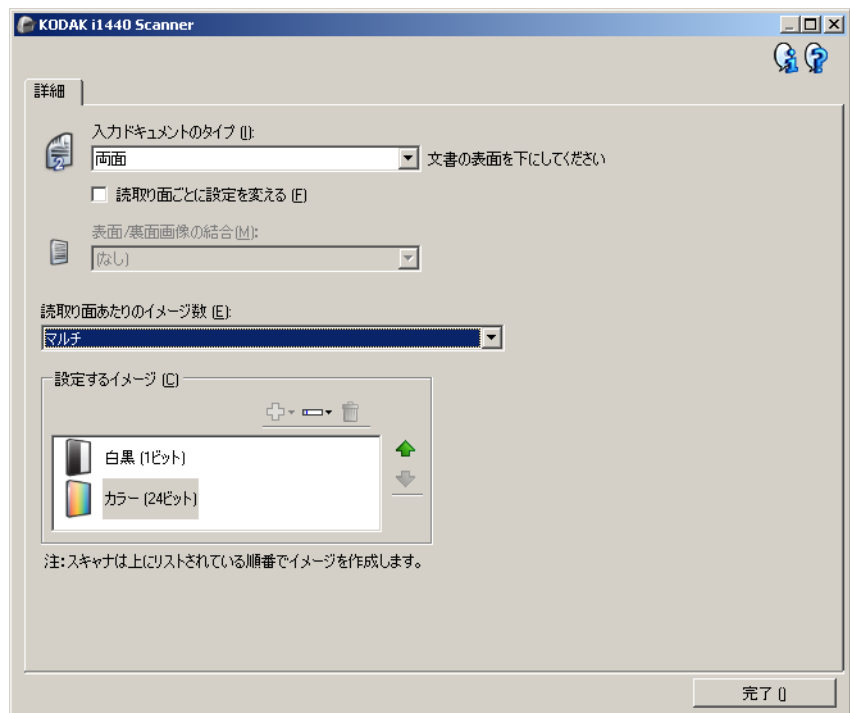
12. 選択が終了したら、[ホーム] を選択してコダックスキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] を選択してショートカットへの選択項目を保存します。

原稿の各面に対する複数イメージの作成 例 2

この例では、両面に情報が印刷されている原稿のスキャンを想定し、原稿の各面に対してカラーと白黒イメージの両方を出力します。

1. コダックスキャナーメインウィンドウから、[設定のショートカット]を選択し、現在の設定内容をさらに調整します。
2. [設定]を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
3. イメージ設定ウィンドウの[詳細イメージセットアップ]アイコンを選択すると、[詳細]タブが表示されます。
4. [入カドキュメントのタイプ]: [両面]を選択します。
5. [読取り面あたりのイメージ数]: マルチ。

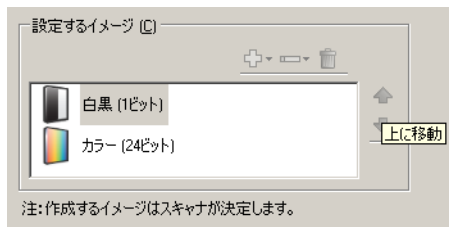
注: [詳細]タブに[設定するイメージ]が表示され、[カラー]、[白黒]イメージ項目があります。



6. カラーイメージではなくグレースケールイメージを取得する場合は、次の処理を行います。
 - [カラー (24 ビット)]を選択する
 - [変更]を選択してオプションのリストを表示する
 - [グレースケール]を選択する

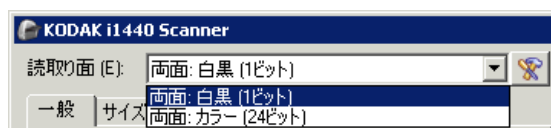
7. デフォルトでは、スキャナーはまずカラー／グレースケールイメージを出力してスキャンアプリケーションに送り、次に白黒イメージを生成してスキャンアプリケーションに送ります。白黒イメージを先に生成して送信したい場合、次の手順に従います。

- [白黒 (1 ビット)] を選択していることを確認します。
- [上に移動] を選択して、白黒イメージを先にリストにセットします。



8. [完了] をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。

注： [読取り面] オプションで、[両面：カラー (24 ビット)]、および [両面：白黒 (1 ビット)] が選択できます。



9. [読取り面:] で [両面：カラー (24 ビット)] を選択します。

注： イメージ設定ウィンドウのその他のタブと、カラーイメージ設定の設定項目を調整します。

10. [読取り面:] で [両面：白黒 (1 ビット)] を選択します。

注： イメージ設定ウィンドウのその他のタブと、白黒イメージ設定の設定項目を調整します。

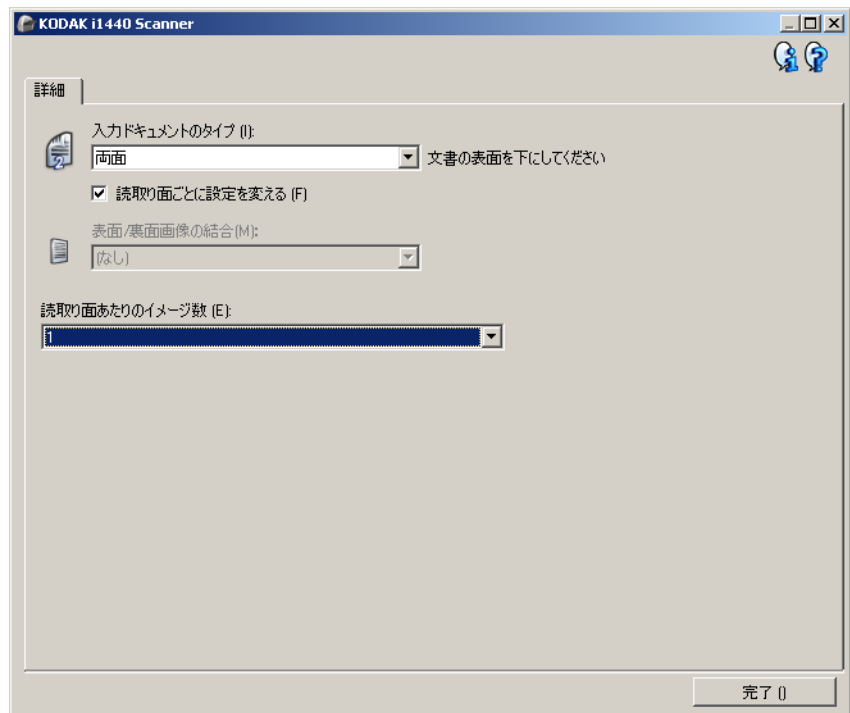
11. 選択が終了したら、[ホーム] を選択してコダックスキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] を選択してショートカットへの選択項目を保存します。

原稿の各面に対する複数設定の作成 例 3

この例では、表面はカラーで裏面は白黒の原稿をスキャンする、設定を行います。

注：この手順は両面スキャナーでのみ使用できます。

1. [詳細] タブを開いていない場合、次の手順に従います。
 - コダックスキャナーメインウィンドウから、[設定のショートカット] を選択し、現在の設定内容をさらに調整します。
 - [設定] を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
 - イメージ設定ウィンドウの [詳細イメージセットアップ] アイコンを選択すると、[詳細] タブが表示されます。
2. [入力ドキュメントのタイプ]: [両面] を選択します。
3. [読み取り面ごとに設定を変える] オプションを選択します。
4. [読み取り面あたりのイメージ数]: [1] を選択します。



5. [完了] をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。

注：[読み取り面] オプションに、[表面] と [裏面] の 2 つの項目が表示されます。
6. [読み取り面:] で [表面] を選択します。
7. [一般] タブの [スキャン形式] オプションで、[カラー (24 ビット)] を選択します。

注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、裏面の設定項目を調整します。
8. [読み取り面:] で [裏面] を選択します。

9. [一般] タブの [スキャン形式] オプションで、[白黒 (1 bit)] を選択します。

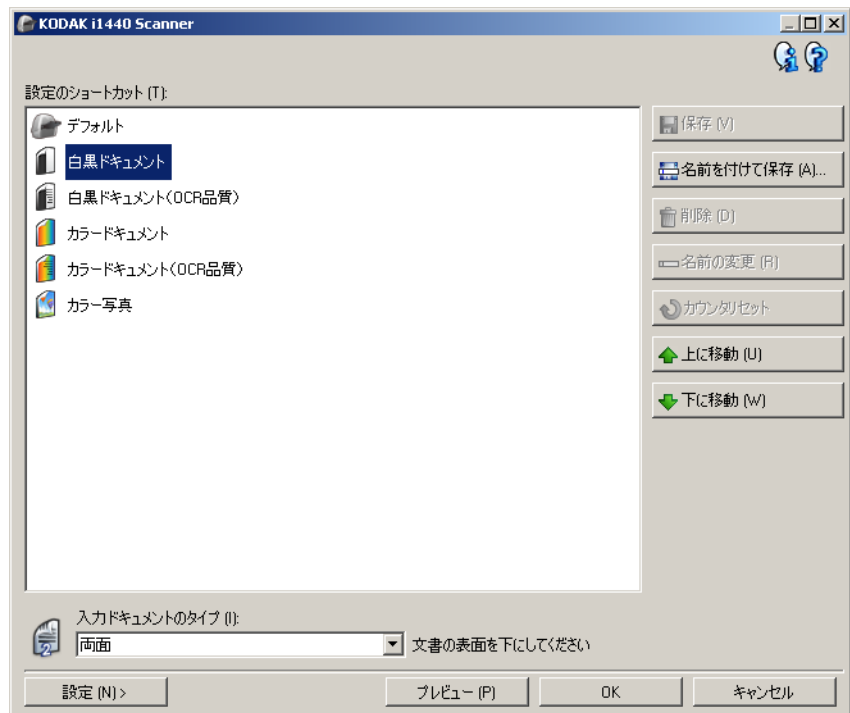
注： イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、裏面の設定項目を調整します。

10. 選択が終了したら、[ホーム] を選択してコダックスキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] を選択してショートカットへの選択項目を保存します。

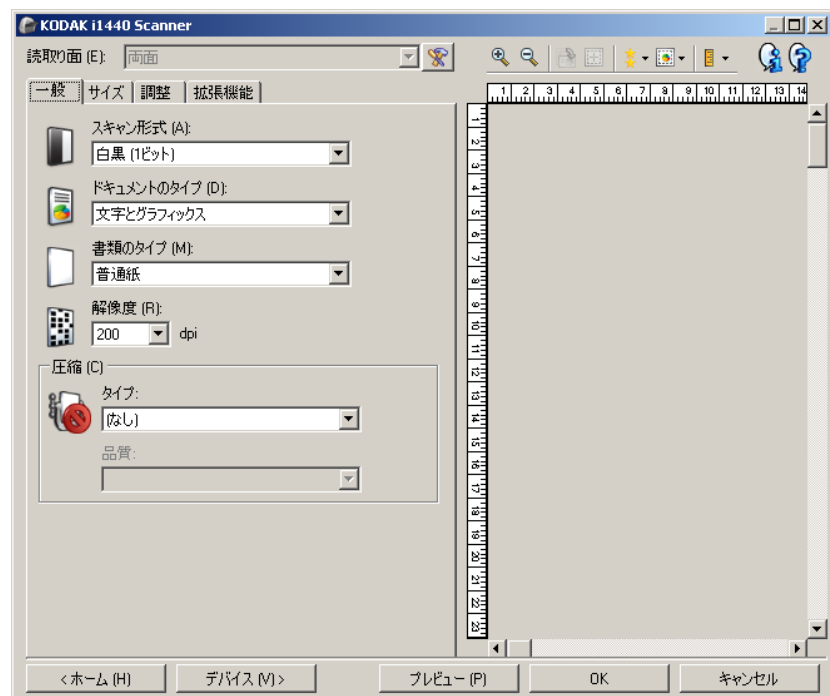
注： 手順 4 で [読取り面あたりのイメージ数：1] 以外のオプションを選択している場合にのみ、2つの [設定するイメージ] オプショングループを使用できます。その場合は、ドキュメントの表裏各面のイメージを個別にセットアップすることができます。

新しい設定のショートカットの作成

1. コダックスキャナメインウィンドウのリストから、[設定のショートカット]を選択します。目的のイメージ出力に最適のショートカットを選択してください。



2. [入力ドキュメントのタイプ]フィールドから、原稿の表面のイメージを取り込むのか、裏面のイメージまたは両面のイメージを取り込むのかを選択します。
3. コダックスキャナメインウィンドウで[設定]を選択します。イメージ設定ウィンドウの[一般]タブが表示されます。



4. [一般] タブで適切なオプションを選択します。

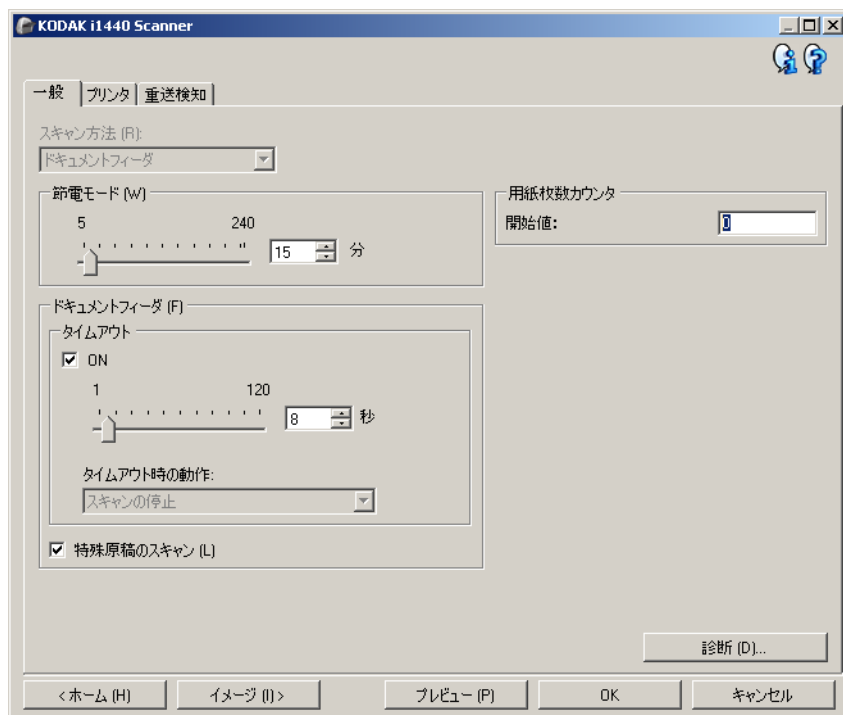
注： 必要な場合は、他のタブで各設定を確認し、変更します。

5. スキャナーの入カトレイに原稿を 1 枚セットします。

6. どのようにイメージがスキャンされるかを確認するには、**[プレビュー]** をクリックします。

注： 表示されたイメージの品質に満足できない場合は、別のショートカットを利用して設定を変更するか、イメージ設定ウィンドウの他のタブで設定容をさらに調整します。

7. イメージ設定ウィンドウの **[デバイス]** を選択して目的のデバイス設定を定義します。



8. それぞれのタブで、スキャナーに実行させる適切なオプションやアクションを選択します。

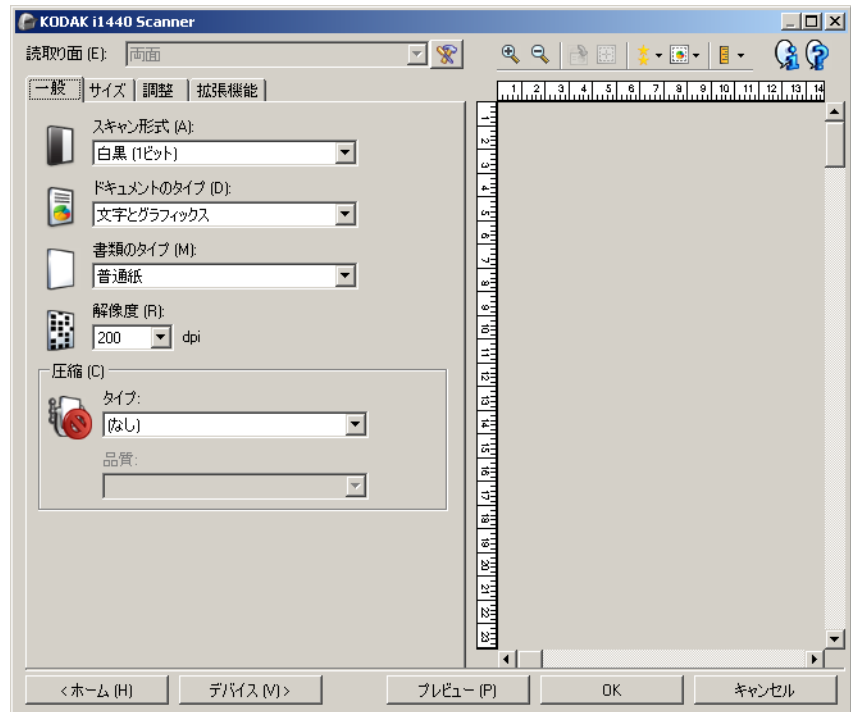
9. **[ホーム]** をクリックしてコダックスキャナーメインウィンドウに戻ります。

10. **[名前を付けて保存]** を選択して、名前を付けて保存ウィンドウを表示します。

11. 判別しやすい設定の新しいショートカット名を入力して、**[保存]** をクリックします。

イメージ設定の変更

1. コダックスキャナーメインウィンドウから、**[設定のショートカット]**を選択し、現在の設定内容をさらに調整します。
2. コダックスキャナーメインウィンドウから、**[入カドキュメントのタイプ]**を選択します。
3. **[設定]**を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。



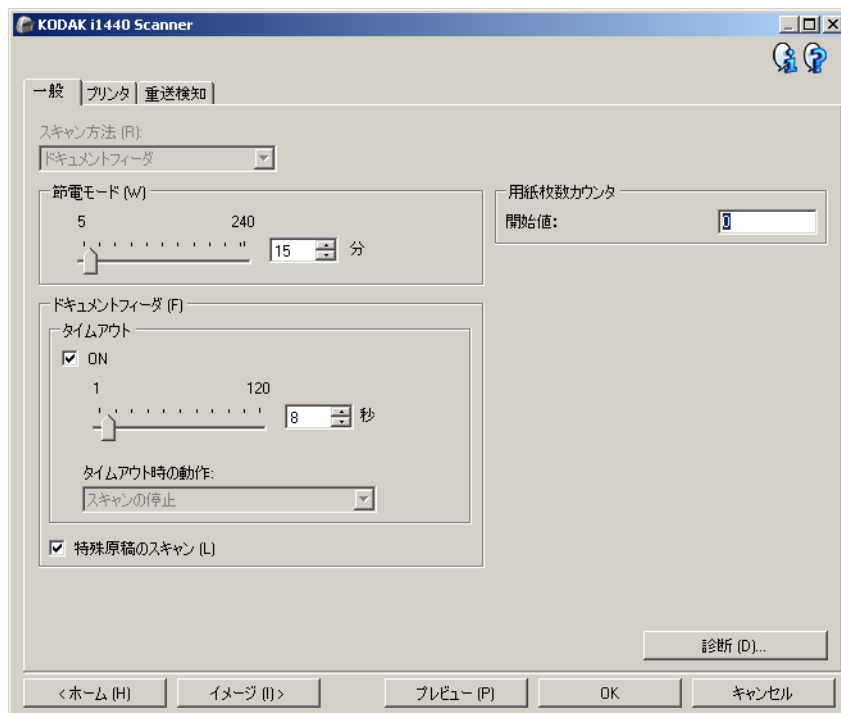
4. 設定内容を変更する前に、イメージ設定ウィンドウの各タブをクリックして、どのようなオプションや機能があるかを確認します。
5. 使用する各オプションでは、スキャンするときに実行する項目を適切に選択します。
6. オプションの結果を見たい場合：
 - スキャナーの入カトレイに原稿を1枚セットします。
 - **[プレビュー]**を選択して、プレビュースキャンを実行します。

注：表示されたイメージの品質に満足できない場合は、別のショートカットを利用して設定を変更するか、もう一度イメージ設定ウィンドウの各タブ確認しながら現在のショートカットを使用して続行します。この手順は必要に応じて繰り返します。
7. 選択が終了したら、**[ホーム]**を選択してコダックスキャナーメインウィンドウに戻り、**[保存]**を選択してショートカットへの選択項目を保存します。

デバイス設定ウィンドウ

このウィンドウからスキャナー固有のすべてのオプションや診断機能を利用可能なタブを使用して設定できます。デバイス設定に使用される値は、選択された [設定のショートカット] に保存されます。デバイス設定ウィンドウには、[一般]、[プリンタ]、[重送検知] タブがあります。

注： [プリンタ] タブは、スキャナにドキュメントプリンタがない場合は利用できません。



ホーム — コダックスキャナーメインウィンドウに戻ります。

イメージ — [イメージ設定] ウィンドウを表示します。

プレビュー — スキャンを開始すると、プレビュー領域にイメージ設定ウィンドウにスキャンされたイメージが表示されます。表示されたイメージは、現在ショートカット設定に基づくサンプルです。

OK / スキャン — このオプションを選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

注： このボタンが [OK] の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションの影響を受けます。

キャンセル — 変更内容を保存せずに、コダックスキャナーメインウィンドウを閉じます。

情報アイコン



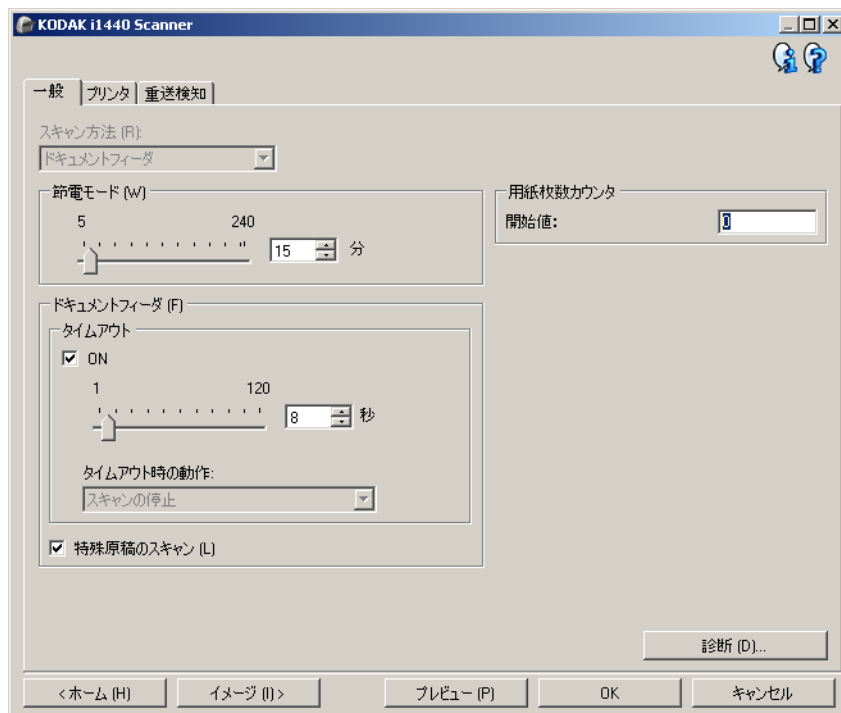
バージョン情報：スキャナーのバージョンと著作権情報を表示します。



ヘルプ：現在表示されているウィンドウのヘルプ情報を表示します。

デバイス - [一般] タブ

[一般] タブを使用して、スキャナー固有のオプションを設定したり、スキャナー診断にアクセスできます。



給紙方法

- **自動**：最初にドキュメントフィーダに原稿があるか確認します。入力トレイに原稿がない場合は、スキャナーはフラットベッドからスキャンします。
- **ドキュメントフィーダ**：スキャナーは入力トレイから原稿をスキャンします。
- **フラットベッド**：スキャナーはフラットベッドからスキャンします。

注：[自動] および [フラットベッド] オプションは、スキャンアプリケーションがスキャナーに接続されていて、フラットベッドアクセスが接続されている場合にのみ利用できます。

節電モード—スキャナーが操作されていないときに省電力モードに移行するまでの時間を設定できます。

注：[節電モード] は、すべての [設定のショートカット] で共有されます。[この設定のショートカットにのみ保存] オプションを有効にしない限り、あらゆる変更は他のショートカットに反映されます。

ドキュメントフィーダ

- **タイムアウト**：最後の原稿がフィードされてからタイムアウトになるまでのスキャナーの待機時間を選択できます。
 - **タイムアウト時のアクション**：ドキュメントフィーダがタイムアウトになったときに実行するアクションを指定できます。
 - **スキャンの停止**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。

用紙枚数カウンター — スキャナーに入る次の実際の用紙に割り当てられる番号を入力します。これは、スキャナーにより順次増加され、イメージヘッダーに送られます。

注：これを変更すると、[デバイス - プリンター] タブの [カウンター] オプションに影響が及びます。

原稿管理

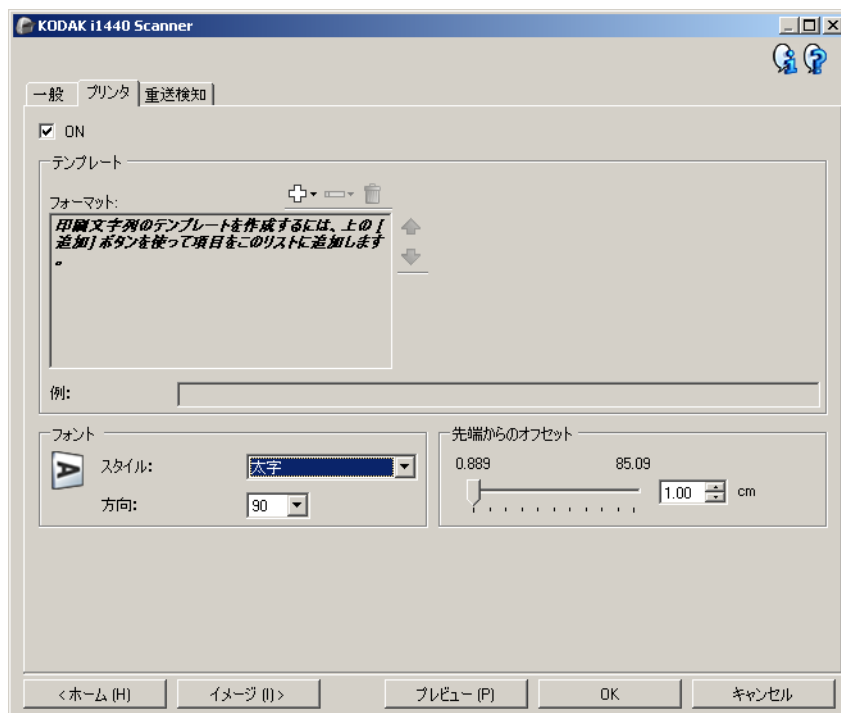
- **排紙方法** — スキャナーの原稿の排紙方法を選択できます。これにより、原稿がスキャナーにフィードされる方法、スキャナー内で送られる速度、および出力トレイに配置される方法に影響が及びます。
 - **通常**：追加の処理は行われません。すべての原稿が同じようなサイズである場合に最適です。
 - **特殊**：不定型な原稿（例、クーポンが削除されているページ、または大きな穴が開いていたり、切り抜かれている原稿）の場合に使用します。
- **最大の長さ** — 原稿セット内での原稿の最大の長さを示す値を選択します。

注：

- この値を変更すると、次の設定の最大値に影響します。 *イメージサイズ - アウトライン*、 *プリンター - リードエッジからのオフセット*、 *マルチフィード - 長さの探知*。
- 長さが設定値を超える場合、[スキャン方法]と[解像度]の設定の組み合わせは一部制限されます。アプリケーションが可能な限り動作できるように、スキャナーは対応していない長さの原稿が確認されるまでエラーを生成しません。
- 長い原稿の場合、スキャナーのスループットが減少する場合があります。

診断 — [診断] タブを表示します。

デバイス - [プリンター] タブ 拡張プリンタには、搬送方向に対し平行に印字することができる機能があり、英数字、日時、原稿カウント、カスタムメッセージをサポートしています。印刷情報は原稿ごとにすべてヘッダレコードに取り込まれます。



ON — プリンタを有効にして、このタブの他のオプションを有効にします。

テンプレート：フォーマット — 印字文字列を定義できます。印字文字列の最大文字数は40文字です（スペースを含む）。

[ツールバー] ボタン

	追加 ：印字文字列に追加する項目リストを表示します。項目を1つ選択すると、その項目は [フォーマット] リストの最後に表示されます。
	変更 ：[フォーマット] リスト内で現在選択されている項目を、表示されているそのリスト中の項目のいずれかと変更できます。
	削除 ：現在選択されている項目を [フォーマット] リストから削除できます。

注：印字文字列を構成する場合、40文字の制限に適合する項目だけを [追加] および [削除] リストから使用できます。

項目—項目が選択されると、関連付けられたオプションはすべて[フォーマット]リストの右側に表示されます。

- **カウンタ**：これは、スキャンセッションのカウンタです。この値はスキャナーにより順次増え、イメージヘッダに送られます。

- **開始値**：次にスキャンされる原稿のカウンタ値を設定できます。

注：この値を変更すると、デバイス - [一般] タブのオプションに影響が及びます。

- **フィールドの桁数**：カウンタの桁数を 1～9 の範囲で設定できます。たとえば印刷文字列が 6 文字しか残っていない場合は、フィールドも 6 文字に制限されます。

- **ゼロ付き**：幅の値がフィールド幅以下の場合、カウンタの形式を設定できません（例ではフィールド幅が 3、カウンタが 4 です）。次のオプションを選択できます。

表示：“004”

非表示：“4”

スペースとして表示：“ 4”

- **日付**

- **フォーマット**：

- MMDDYYYY

- DDMMYYYY

- YYYYMMDD

- **区切り記号**：（例では YYYYMMDD 形式です）

- なし

- スラッシュ：2006/12/03

- ハイフン：2006-12-03

- ピリオド：2006.12.03

- スペース：2006 12 03

- **指定の日付**：スキャナーの現在の日付を使用しない場合は、特定の日付を選択できます。

- **時刻**：HH：MM 形式です。

- **指定の時刻**：スキャナーの現在の時刻を使用しない場合は、特定の時刻を選択できます。

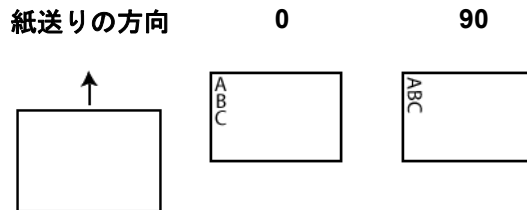
- **スペース**：スペースを追加します。

- **メッセージ**：印字文字列にカスタムテキストを指定できます。最大 40 文字まで指定できます。

注：日本語を正しく表示するには、Microsoft Global IME 5.01 for Japanese - with Language Pack, English Language Version のインストールによって設定された MS ゴシックフォントを使用する必要があります。これは、www.microsoft.com/msdownload/iebuild/ime5_win32/en/ime5_win32.htm で入手できます。

例 — 印字文字列がどのように表示されるか例を表示します。[フォーマット]リストで項目を選択すると、例で該当する部分が強調表示されます。

- **フォント** — 情報を印字する方向を選択できます。
 - **スタイル** : 使用できる文字の書式は、[標準]と[太字]です。
 - **方向** : 文字を縦方向（書類の先端から開始）に印字する場合、印字文字列の方向を選択できます。利用できるオプションは、**0, 90**。

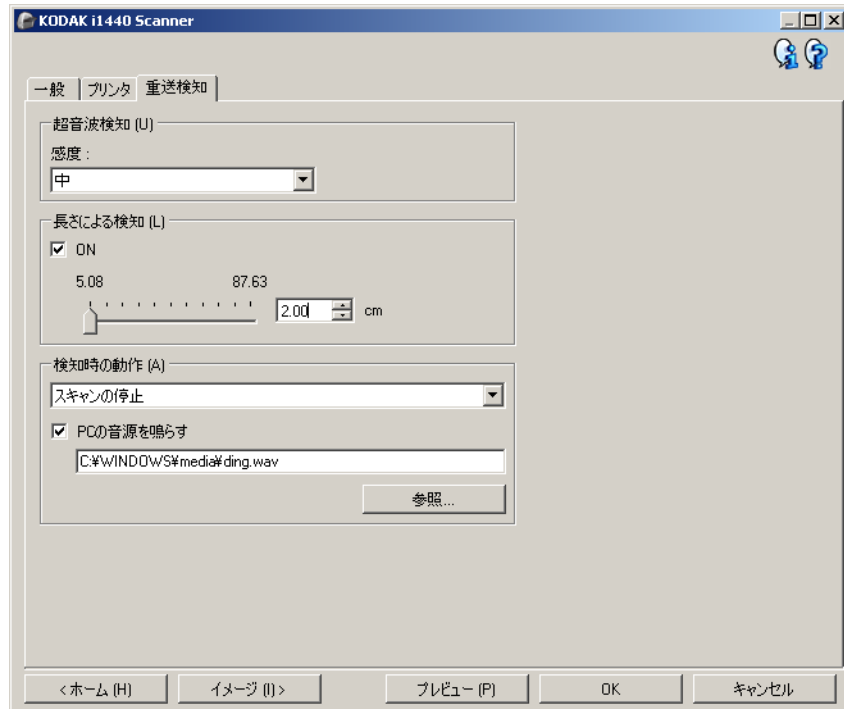


先端からのオフセット — 値を選択して、情報が原稿の先端からどれくらい離れて印字されるか決定します。

注 :

- 情報がすべて印字されていなくても、印字は原稿の後ろのエッジから 6.3 mm のところで自動的に停止します。
- 横印字位置は、スキャナー内のインクカートリッジの場所により決まります。印字位置の設定については、『ユーザーガイド』を参照してください。

重送検知機能は、原稿が重なった状態でスキャンされるのを給紙された時点で検知します。重送はホッチキスで綴じられた原稿、原稿への粘着物、または静電気を帯びている原稿が原因で発生します。



超音波検知

感度 — スキャナーに複数の原稿が重なった状態で送られたかどうかを、どの程度まで検知するかを指定します。重送検知機能は、原稿との隙間を検知することにより、重なった原稿を識別します。そのため、厚さの異なる原稿が混在しているような場合でも、重送を検知することができます。

- (なし)
- **小**：レベルが低い設定で、ラベルを貼った原稿、紙質の悪い原稿、皺がある原稿を重送として認識する可能性はもっとも低くなります。
- **中**：厚さが異なる原稿や、ラベルが貼られた原稿をスキャンする場合に使用します。ラベルの材質にもよりますが、大部分のラベルは重送とは認識されません。
- **大**：最もレベルが高い設定で重送を検出します。この設定は、すべての原稿が 20 lb. 以下のボンド紙の厚さである場合など、厚さが同じ原稿をスキャンするのに向いています。

注：設定の内容に関係なく、「貼付された」メモは重送原稿として検知されます。

長さによる検知 — ジョブ設定で原稿の最大の長さを選択できます。スキャナーがこの値より長いドキュメントを探知した場合、重送が発生したと判定します。このオプションを **ON** にするか、長さを設定できます。

検知時の動作 — 重送を検知した時のスキャナーの動作を選択します。オプションに関係なく、状態はスキャナーのログに記録されます。

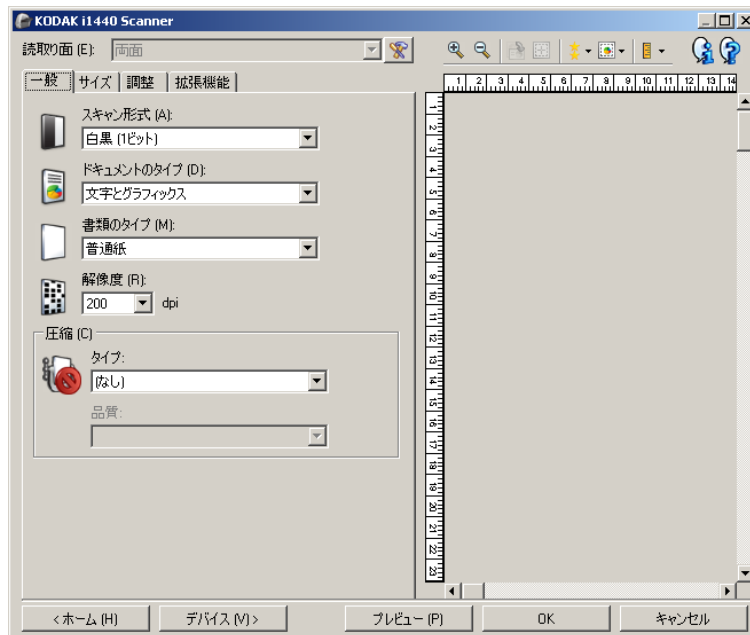
- **スキヤンの停止**：スキヤンを停止し、スキヤンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。搬送路に原稿が残っていないことを確認後、スキヤンアプリケーションからスキヤンを再開してください。
- **スキヤンの停止 - 用紙を搬送部に残す**：スキヤンを直ちに停止し（搬送路はクリアされません）、スキヤンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。搬送路から原稿を取除き、スキヤンアプリケーションからスキヤンを再開してください。
- **スキヤンの継続**：スキャナーがスキヤンを継続します。

PC の音源を鳴らす — 重送検出時に音を鳴らす場合、このオプションを選択します。[参照] ボタンをクリックして、再生する wav ファイルを選択できます。

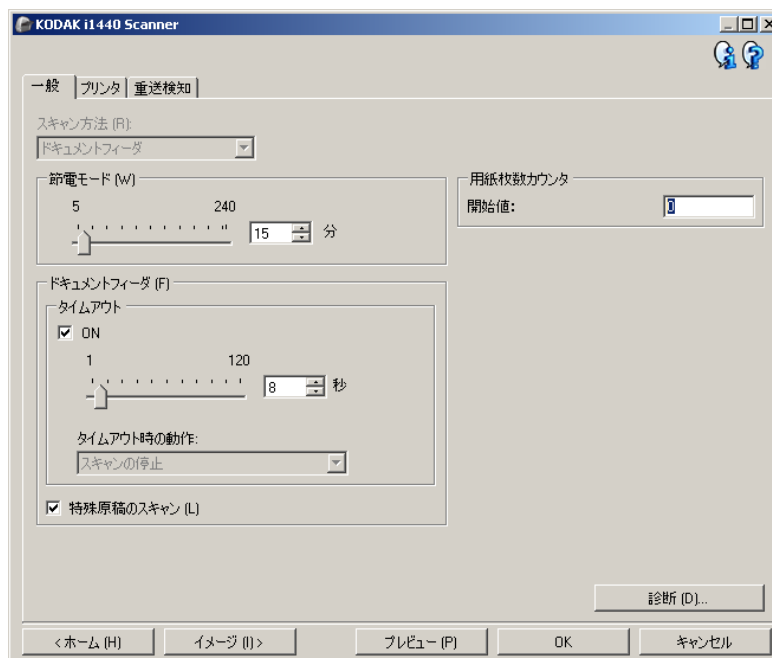
注：コンピュータの音源は、スキャナーの重送検出時と同時に鳴らない場合があります。

デバイス設定の変更

1. コダックスキャナーメインウィンドウから、[設定のショートカット] を選択し、現在の設定内容をさらに調整します。
2. [設定] を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。



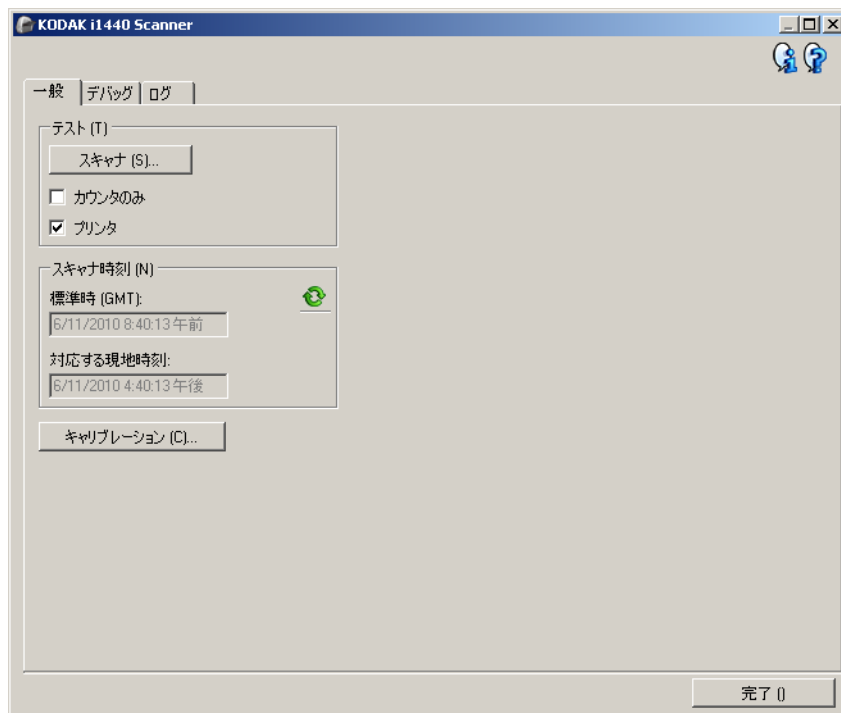
3. [デバイス] を選択すると、デバイス設定ウィンドウが表示されます。



4. 設定内容を変更する前に、デバイス設定ウィンドウの各タブをクリックして、どのようなオプションや機能があるかを確認します。
5. 使用する各オプションでは、スキャンするときに行う項目を適切に選択します。
6. 選択が終了したら、[ホーム] を選択してコダックスキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] を選択してショートカットへの選択項目を保存します。

[診断] ウィンドウ

このウィンドウからスキャナーの診断機能にアクセスできます。[診断] ウィンドウには [一般]、[デバッグ]、[ログ] のタブがあります。[診断] ウィンドウは、[デバイス設定] ウィンドウの [一般] タブにある [診断] ボタンからアクセスできます。

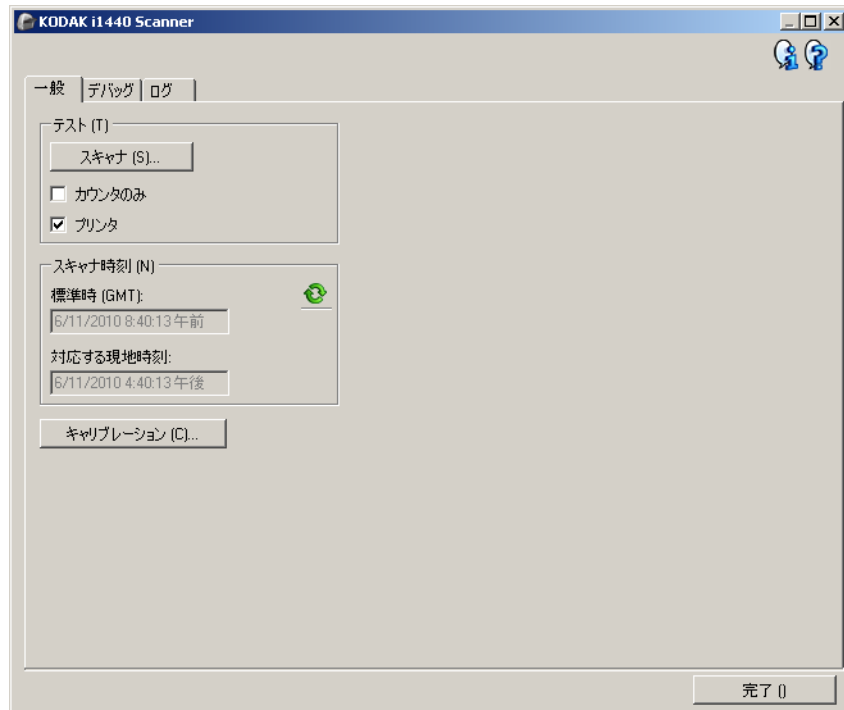


デバイス — 診断を実行するデバイスを選択します。オプションは、[ドキュメントフィーダ] または [フラットベッド] です。

注：このオプションは、スキャンアプリケーションがスキャナーに接続されている場合フラットベッドアクセサリが添付されている場合にのみ利用できます。

完了 — [デバイス設定] ウィンドウに戻ります。

[一般] タブでは、スキャナーをテストしたり、スキャナーの時刻を確認することができます。



テスト

- **スキャナー**：電源投入時のセルフテストと似ていますが、さらに詳細なテストを行います。このオプションを選択すると、一連のテストが行われ、すべてスキャナーハードウェアが正常に動作しているかどうかを確認されます。
- **カウントオンリー**：実際にイメージをスキャンアプリケーションに送信せずにスキャナーに入る原稿の枚数を数えます。このテストは、このオプションが有効になっているスキャンセッション中に実行されます。


注：スキャンアプリケーションがスキャナから取り外されると、自動的にこのテストは無効になります。

- **プリンタ**：インクカートリッジが機能しているかなど、プリンタの機能性をテストします。このテストは、このオプションが有効になっているスキャンセッション中に実行されます。

注：スキャンアプリケーションがスキャナーから取り外されると、自動的にこのテストはオフになります。

スキャナー時刻

- **標準時 (GMT)**：スキャナーのグリニッジ標準時を表示します。
- **対応する現地時刻**：スキャナーのグリニッジ標準時をコンピュータの現地時間帯で表示します。

 **更新**：現在のスキャナー時刻を再表示します。

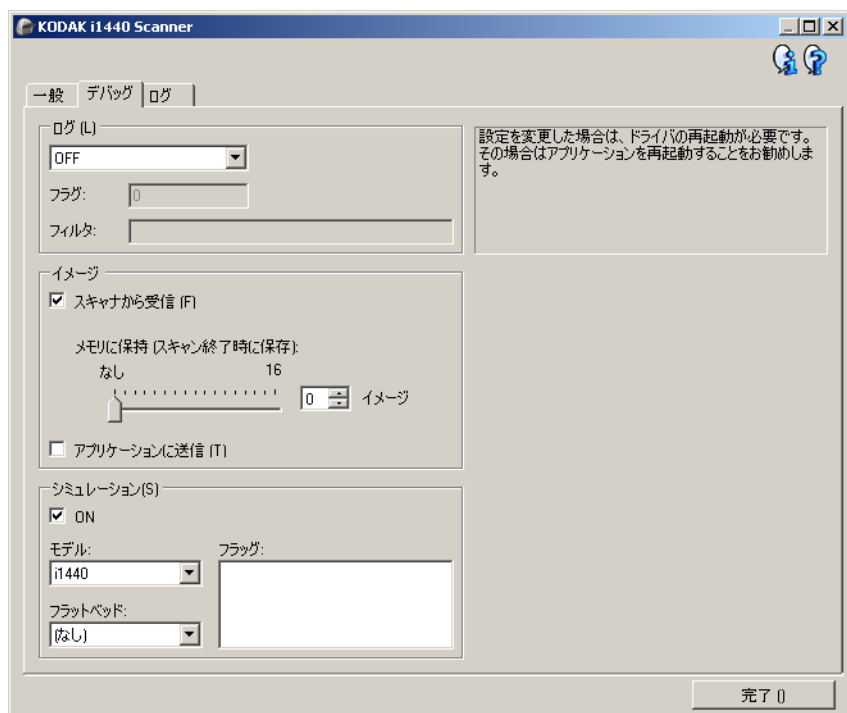
キャリブレーション — [キャリブレーション] ウィンドウを表示します。キャリブレーションは頻繁に行う必要はなく、また、お勧めもありません。サポート担当者の指示があった場合にのみキャリブレーションを実行します。

診断 - [デバッグ] タブ

[デバッグ] タブでは、スキャナとスキャンアプリケーション間の通信、およびイメージをファイルに保管し、それを後でコダック担当者が確認することができます。

注：

- このタブにあるすべてのオプションは、現在選択されている設定のショートカットだけでなく、すべての設定のショートカットに適用されます。
- このタブで行った変更を有効にするには、アプリケーションを再起動する必要があります。



ログ — スキャナーとスキャンアプリケーションの間で行われた通信を保存します。オプションは、[OFF]、[ON]、[カスタム] です。

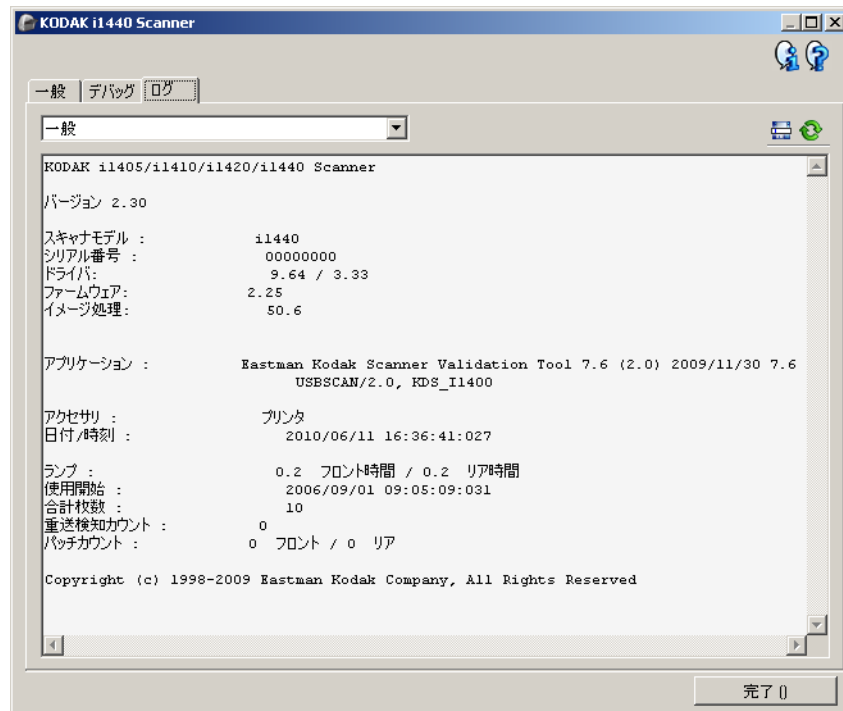
イメージ

- **スキャナーから受信** — スキャナーから受け取ったイメージを保存します。
- **アプリケーションに送信** — スキャナーからスキャンアプリケーションに送信されたイメージを保存します。
- **シミュレーション** — 実際にスキャナーを使わずに TWAIN ドライブ/データソースを使用することができます。
 - **モデル**：シミュレートするスキャナーのモデルを指定できます。
 - **フラットベッド**：フラットベッドアクセサリを選択してシミュレーションを行えます。

- **フラグ**: お使いの TWAIN ドライバ/データソースがこのオプションをサポートしている場合、シミュレートするスキャナーにインストールされているアクセサリのリストが表示されます。

診断 - [ログ] タブ

[ログ] タブでスキャナー情報が表示されます。



ログ

- **一般**: スキャナーのバージョン情報、シリアル番号、インストール済みアクセサリ、メーターなどが表示されます。
- **オペレータ名**: スキャナーのログが表示されます。このログはコダックサポート担当によってのみクリアされます。

[ツールバー] ボタン



名前を付けて保存: すべてのログを保存し、コダックサポート担当が閲覧します。選択すると [名前を付けて保存] ウィンドウが表示されます。

- **説明**: ログを保存する問題 / 原因の簡単な説明を入力します。
- **フォルダ**: ログの保存先です。
- **参照**: OS の [ファイルを開く] ウィンドウが表示され、使用するフォルダを検索できます。
- **デバッグイメージを含める**: 生成されたデバッグイメージをログとともに保存します。このオプションはデフォルトでオンになっています。サポート担当者から指示され場合のみオフにしてください。
- **保存**: 拡張子が .eklog のファイルにログを保存します。



更新: 現在表示されているログを更新します。

Kodak

コダック株式会社
東京都千代田区神田駿河台 2-9
KDX 御茶ノ水ビル
Rochester, NY 14650 U.S.A.
© Kodak, 2013. All rights reserved.
TM: Kodak